

十勝農業共済組合事業規程

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| 第1章 総 則 (第1条～第25条) | 1 |
| 第2章 農作物共済 (第26条～第47条) | 9 |
| 第3章 家畜共済 | 18 |
| 第1節 通 則 (第48条～第67条) | 18 |
| 第2節 死亡廃用共済 (第68条～第76条) | 27 |
| 第3節 疾病傷害共済 (第77条～第85条) | 31 |
| 第4章 畑作物共済 (第86条～第106条) | 33 |
| 第5章 園芸施設共済 (第107条～第130条) | 40 |
| 第6章 損害評価会等 (第131条～第139条) | 48 |
| 第7章 家畜診療所 (第140条) | 49 |
| 第8章 補 則 (第141条) | 49 |
| 附 則 | 50 |
| 事業規程附属書 | 57 |
| 共済金支払規程 | 57 |

第 1 章 総 則

(趣 旨)

第1条 この規程は、この組合が農業保険法（昭和22年法律第185号。以下「法」という。）に基づいて行う農業共済事業に関し必要な事項を定めるものとする。

(共済事業の種類並びに共済目的及び共済事故)

第2条 この組合は、その行う共済事業のうち、農作物共済にあつては第1号、家畜共済のうち死亡廃用共済にあつては第2号、家畜共済のうち疾病傷害共済にあつては第3号、畑作物共済にあつては第4号、園芸施設共済にあつては第5号に掲げる共済目的につき、当該各号に掲げる共済事故によって生じた損害について、この組合との間に共済関係の存する者に対して共済金を交付するものとする。

(1) 共済目的 水稲及び麦

共済事故 風水害、干害、冷害、雪害その他気象上の原因（地震及び噴火を含む。）による災害、火災、病虫害及び鳥獣害

(2) 共済目的 次に掲げる家畜

イ 成牛（出生後第5月の月の末日を経過した牛をいう。）

ロ 子牛等（イ以外の牛（以下「子牛」という。）及び牛の胎児をいう。以下同じ。）（その母牛に対する授精又は受精卵移植の日から起算して240日以上に達したものに限る。）

ハ 馬（出生後第4月の月の末日を経過したものに限る。）

ニ 種豚（出生後第5月の月の末日を経過したものに限る。）

ホ 肉豚（種豚以外の豚をいう。以下同じ。）のうちへに規定する群単位肉豚以外のもの（以下「特定肉豚」という。）（出生後第20日の日（その日に離乳していないときは、離乳した日。へにおいて同じ。）に達しているものに限る。）

ヘ 肉豚のうち次に掲げる要件のいずれかを満たさない者の飼養するもの（以下「群単位肉豚」という。）（出生後第20日の日に達し、第8月の月の末日を経過していないものに限る。）

(イ) 畜舎への立入調査により、母豚の頭数、畜舎の構造及び敷地面積その他肉豚の飼養頭数の確認のために必要な事項が把握できること。

(ロ) 過去3年間においてその者の飼養する母豚の繁殖成績及び当該母豚から出生した豚の離乳の日に至るまでの死亡率を記録しており、かつ、今後とも当該繁殖成績及び死亡率を記録することが確実であると見込まれること。

(ハ) 過去3年間においてその者の飼養する母豚から出生した豚が、その者の出荷する肉豚（養畜の業務の規模の著しい変更に伴う共済目的たる肉豚の譲受け又は共済事故の発生による飼養頭数の減少を補うことを目的とする共済目的たる肉豚の譲受けにより飼養するに至ったものを除く。）のおおむね全頭を占めており、かつ、今後ともその者の飼養する母豚から出生した豚がその者の出荷する肉豚のおおむね全頭を占めることが確実であると見込まれること。

(ニ) 過去3年間において出荷した肉豚の頭数に関する資料の提供につき協力が得られる者に肉豚を出荷しており、かつ、今後とも肉豚を当該資料の提供につき協力が得られる者に出荷することが確実であると見込まれること。

共済事故 牛、馬及び種豚にあつては死亡（と殺による死亡及び家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号）第58条第1項（第4号に係る部分に限る。）の規定による手当金、同条第2項の規定

による特別手当金又は同法第 60 条の 2 第 1 項の規定による補償金の交付の原因となる死亡を除く。以下同じ。) 及び廃用、牛の胎児及び肉豚にあつては死亡

- (3) 共済目的 牛、馬及び種豚
共済事故 疾病及び傷害

- (4) 共済目的 ばれいしょ、大豆、小豆、いんげん（手亡類、金時類、うずら類、大福類及びとら豆類のいんげん並びにべにばないんげんのいんげんの品種に限る。）、てん菜（専ら製糖用に供するため栽培される品種に限る。）、そば、スイートコーン、たまねぎ及びかぼちゃ（次号の特定園芸施設（気象上の原因により農作物の生育が阻害されることを防止するための施設（当該施設に附属する設備を含む。）を除く。）を用いて栽培されているものを除く。）

共済事故 風水害、干害、冷害、ひょう害その他気象上の原因（地震及び噴火を含む。）による災害、火災、病虫害及び鳥獣害

- (5) 共済目的 施設園芸（農作物の生育条件を一定の施設により調節し及び管理して、これを栽培することをいう。）の用に供する施設（以下「施設園芸用施設」という。）のうち温室その他のその内部で農作物を栽培するための施設及び気象上の原因により農作物の生育が阻害されることを防止するための施設（これらに附属する設備を含むものとし、被覆物を移動し又は除去しなければその内部で通常の栽培作業を行うことができない施設園芸用施設、単位面積当たりの再建築価額（当該施設園芸用施設と同一の構造、材質、用途、規模、型及び能力を有するものを建築するのに要する費用に相当する金額をいう。）が農業保険法施行規則（平成 29 年農林水産省令第 63 号。以下「規則」という。）第 46 条の規定により農林水産大臣の定める金額に満たないもの及び気象上の原因により農作物の生育が阻害されることを防止するための施設園芸用施設（その構造が温室その他のその内部で農作物を栽培するための施設の構造に類するものを除く。）を除く。以下「特定園芸施設」という。）

共済事故 風水害、ひょう害その他気象上の原因（地震及び噴火を含む。）による災害、火災、破裂、爆発、航空機の墜落及び接触、航空機からの物体の落下、車両及びその積載物の衝突及び接触、病虫害並びに鳥獣害

- ② 前項第 2 号の廃用の範囲は、次の各号のいずれかに該当する場合における廃用とする。

- (1) 疾病又は不慮の傷害（第 3 号に掲げる疾病及び傷害を除く。）によって死にひんしたとき。
(2) 不慮の災厄によって救うことのできない状態に陥ったとき（家畜伝染病予防法第 58 条第 2 項の規定による特別手当金又は同法第 60 条の 2 第 1 項の規定による補償金の交付の原因となると殺又は殺処分が行われることが判明したときを除く。）。
(3) 骨折、は行、両眼失明、伝達性海綿状脳症、牛白血病若しくは創傷性心臓のう炎で治癒の見込みのないもの又は放線菌症、歯牙疾患、顔面神経まひ若しくは不慮の舌断裂であつて採食不能となるもので治癒の見込みのないものによって使用価値を失ったとき。
(4) 盗難その他の理由によって行方不明となった場合であつて、その事実の明らかとなった日の翌日から起算して 30 日以上生死が明らかでないとき。
(5) 乳牛の雌、種雄牛又は種雄馬が、治癒の見込みのない生殖器の疾病又は傷害であつて当該家畜に係る共済責任の始まった時以降に生じたことが明らかなものによって繁殖能力を失ったとき。
(6) 乳牛の雌が治癒の見込みのない泌乳器の疾病又は傷害であつて当該家畜に係る共済責任の始まった時以降に生じたことが明らかなものによって泌乳能力を失ったことが泌乳期において明らかとなったとき。
(7) 牛が出生時において奇形又は不具であることにより、将来の使用価値がないことが明らかなとき。

- ③ 第48条第4号の包括共済関係の成立により消滅した同条第5号の個別共済関係に係る家畜共済に付されていた家畜についての前項第5号及び第6号の規定の適用については、当該包括共済関係に係る共済責任は、当該個別共済関係に係る共済責任の始まった時に始まったものとみなす。
- ④ この組合の包括共済関係に付されていた家畜であつて、当該包括共済関係に係る第48条第1号の包括共済家畜区分以外の包括共済家畜区分に属することとなつたことにより他の包括共済関係に付されたものについての第2項第5号及び第6号の規定の適用については、当該家畜に係る当該他の包括共済関係の共済責任は、その付されていた包括共済関係に当該家畜が付された時に始まったものとみなす。
- ⑤ 次に掲げる物は、特定園芸施設に併せて園芸施設共済の共済目的とすることができる。
- (1) 次に掲げる施設園芸用施設であつて、特定園芸施設とともに次号に掲げる農作物の栽培の用に供されるもの（以下「附帯施設」という。）
- イ 温湿度調節施設
 - ロ かん水施設
 - ハ 排水施設
 - ニ 換気施設
 - ホ 炭酸ガス発生施設
 - ヘ 照明施設
 - ト しゃ光施設
 - チ 自動制御施設
 - リ 発電施設
 - ヌ 病虫害等防除施設
 - ル 肥料調製散布施設
 - ヲ 養液栽培施設
 - ワ 運搬施設
 - カ 栽培棚
 - コ 支持物
- (2) 特定園芸施設を用いて栽培される農作物（育苗中の農作物を除く。以下「施設内農作物」という。）

（共済掛金の払込義務）

第3条 組合員は、この規程で定めるところにより、共済掛金のうち組合員の負担に係る部分の金額（以下「組合員負担共済掛金」という。）をこの組合に払い込まなければならない。

（事務費の賦課）

第4条 この組合は、毎事業年度、この組合が必要とする事務費予定額から法第19条の規定による国庫の負担に係る部分の金額その他の収入予定額に相当する金額を差し引いて得た金額の事務費及び北海道農業共済組合連合会からこの組合に賦課された賦課金の支払に充てる費用を組合員に賦課するものとする。

- ② 前項の賦課は、次の方式によりするものとし、賦課総額及び賦課単価は、総代会で定める。
- (1) 水稻共済割
 - (2) 麦共済割
 - (3) 家畜共済割
 - (4) 畑作物共済割

(5) 園芸施設共済割

- ③ 第1項の規定による賦課金（以下「賦課金」という。）の払込期限は、当該賦課金に係る共済目的又は共済関係についての組合員負担共済掛金の払込期限（家畜共済割により賦課する賦課金にあつては第70条第1項又は第79条第1項の規定により組合員負担共済掛金の分割支払をする場合には、第70条第3項若しくは第4項又は第79条第3項若しくは第4項の規定に準じて算出される金額を、それぞれ当該組合員負担共済掛金の払込期限）と同一の期限とする。
- ④ 賦課金の払込みの告知は、払い込むべき金額、払込期日及び払込場所を記載した書面をもってするものとする。

(督促)

第5条 この組合は、次に掲げる場合には、督促状により、期限を指定して、組合員負担共済掛金又は賦課金を督促するものとする。

- (1) 家畜共済に係る組合員負担共済掛金を分割により組合員が支払う場合において、組合員が当該分割による第2回目以降の支払の払込期限が経過してもなお当該期限までに払い込むべき組合員負担共済掛金を支払わないとき。
- (2) 第71条第2項、第73条第3項及び第114条第2項の規定により増額した組合員負担共済掛金を組合員が支払う場合において、組合員が当該支払の払込期限が経過してもなお当該期限までに払い込むべき組合員負担共済掛金を支払わないとき。
- (3) 払込期限までに賦課金を支払わないとき。

(延滞金)

第6条 この組合は、前条各号に掲げる場合には、同条の組合員負担共済掛金又は賦課金を支払わない者から、当該組合員負担共済掛金又は賦課金の額につき年10.75%の割合で、払込期限の翌日からその完納の日の前日までの日数により計算した延滞金を徴収するものとする。

- ② 当該組合員負担共済掛金又は賦課金の金額が2,000円未満であるときは延滞金は徴収せず、当該金額に1,000円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てて計算するものとする。
- ③ 前2項の規定により計算した金額が1,000円未満であるときは延滞金は徴収せず、当該金額に100円未満の端数があるときはその端数を切り捨てるものとする。
- ④ この組合は、特別の事由があると認めるときは、理事会の議決を経て第1項の規定による延滞金を減免することができる。

(組合員負担共済掛金等に関する権利の消滅時効)

第7条 組合員負担共済掛金若しくは賦課金又はこれらに係る延滞金を徴収する権利、組合員負担共済掛金の返還又は払い戻しを受ける権利及び共済金の支払を受け、又はその返還を受ける権利は、3年間これを行わないときは、時効によって消滅する。

(共済掛金等の相殺の制限)

第8条 組合員は、この組合に支払うべき組合員負担共済掛金及び賦課金について相殺をもってこの組合に對抗することができない。

(共済金の額の下限)

第9条 この組合が組合員に対して支払う共済金の額は、この組合が北海道農業共済組合連合会から支払を受けた保険金の額を下回らないものとする。

(共済関係の存続)

第10条 この組合との間に共済関係の存する者が、住所を移転したこと（農業共済資格団体（法第20条第2項に規定する農業共済資格団体をいう。以下同じ。）にあっては、その構成員が住所を移転したこと）により組合員でなくなった場合において、その者が当該共済関係を存続させることについてその移転前にこの組合の承諾を受けていたときは、当該共済関係は、なお存続するものとする。

② この組合は、正当な理由がなければ、前項の承諾を拒むことができない。

(共済関係に関する権利義務の承継)

第11条 共済目的の譲受人（農業共済資格団体の構成員が共済目的を譲り受けた場合にあつては、当該農業共済資格団体。以下この条において同じ。）は、この組合の承諾を受けて、共済関係に関し譲渡人（農業共済資格団体の構成員が共済目的を譲り渡した場合にあつては、当該農業共済資格団体）の有する権利義務を承継することができる。この場合において、正当な理由がある場合には、この組合は、承諾を拒むものとする。

② この組合は、家畜共済の共済関係に関する権利義務の承継について前項の承諾をする場合には、当該権利義務は、当該譲受人が当該譲受けの日の属する共済掛金期間の満了の時にこの組合の組合員である場合を除き、当該共済掛金期間の満了の時に消滅する旨の条件を付するものとする。

③ 第1項の規定による承諾を受けようとする譲受人は、当該譲受けの日から2週間以内に、その者の住所（譲受人が法人である場合はその事務所の所在地、譲受人が農業共済資格団体である場合はその代表権を有する者の住所）、共済目的の所在地その他共済目的の状況を明らかにする書面を添えて、この組合に承諾の申請をしなければならない。

④ この組合は、第3項の申請があつたときは、遅滞なく、承諾するかどうかを決定して譲受人に通知するものとする。

⑤ 第1項の規定による権利義務の承継は、その承諾の時（共済目的の譲受けの前に承諾があつた場合は、譲受けの時）からその効力を生ずる。

⑥ 共済目的について相続その他の包括承継があつた場合には、前各項の規定を準用する。

(損害防止の義務等)

第12条 組合員は、共済目的について通常すべき管理その他損害防止を怠ってはならない。

② この組合は、前項の管理その他損害防止について組合員を指導することができる。

(損害防止の処置の指示)

第13条 この組合は、組合員に、損害防止のため特に必要な処置をすべきことを指示することができる。この場合には、組合員の負担した費用は、この組合の負担とする。

(損害防止施設)

第14条 この組合は、家畜診療所のほか、損害防止のため必要な施設をすることができる。

(調 査)

第 15 条 この組合は、損害の防止又は認定のため必要があるときは、いつでも、共済目的のある土地又は工作物に立ち入り、必要な事項を調査することができる。

(通知義務)

第 16 条 組合員は、共済目的に、次の各号に掲げる共済事業の種類ごとに、当該各号に定める異動を生じたときは、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。

(1) 農作物共済 次に掲げる異動

- イ 共済目的の譲渡し
- ロ 収穫適期前の刈取り又はすき込み
- ハ 共済目的が他の類区分に該当することとなる栽培方法等の変更
- ニ 共済関係について災害収入共済方式を選択する場合にあつては、当該共済関係に係る農作物に係る収穫物の出荷計画の変更

(2) 死亡廃用共済（肉豚以外の家畜に係るものに限る。） 次に掲げる異動

- イ 養畜の業務の規模の著しい変更に伴う共済目的たる家畜の譲受け
- ロ 共済事故の発生による飼養頭数の減少を補うことを目的とする共済目的たる家畜の譲受け
- ハ 養畜の業務の規模の著しい変更に伴い共済目的たる家畜を飼養しないこととなったこと。

(3) 死亡廃用共済（特定肉豚に係るものに限る。） 次に掲げる異動

- イ 共済目的たる肉豚の譲受け
- ロ 共済目的たる肉豚が出生後第 20 日の日（その日に離乳していないときは、離乳した日）に達したこと。
- ハ 共済目的たる肉豚を飼養しないこととなったこと。
- ニ 共済目的たる肉豚が種豚になったこと。

(4) 死亡廃用共済（群単位肉豚に係るものに限る。） 次に掲げる異動

- イ 共済目的たる肉豚の譲受け
- ロ 共済目的たる肉豚が出生後第 20 日の日（その日に離乳していないときは、離乳した日）に達したこと。

(5) 畑作物共済 次に掲げる異動

- イ 共済目的の譲渡し、収穫適期前の掘取り、刈取り、抜取り又はすき込み
- ロ 共済目的が他の類区分に該当することとなる栽培方法等の変更

(6) 園芸施設共済 次に掲げる異動

- イ 共済目的の譲渡し、移転、解体、増築、改築、構造若しくは材質の変更又は共済事故以外の事由による破損（軽微なものを除く。）若しくは滅失
- ロ 共済目的を他の保険又は共済に付したこと。
- ハ 特定園芸施設の被覆期間の変更
- ニ 施設内農作物の種類、栽培面積又は栽培期間の変更
- ホ 施設内農作物の発芽又は移植

② 特定肉豚に係る前項第 3 号に定める異動(次に掲げるものを除く。)についての同項の規定による通知は、その異動の日の属する基準期間（共済責任期間の開始の日から最初の基準日（共済掛金期間開始の日から 1 月を経過するごとの日をいう。以下この項において同じ。）までの期間及び各基準日の翌日から次の基準

日までの期間をいう。以下同じ。)の終了後、遅滞なくするものとする。

- (1) 養畜の業務の規模の著しい変更に伴う共済目的たる肉豚の譲受け
 - (2) 共済事故の発生による飼養頭数の減少を補うことを目的とする共済目的たる肉豚の譲受け
 - (3) 養畜の業務の規模の著しい変更に伴い共済目的たる肉豚を飼養しないこととなったこと。
- ③ 組合員は、共済事故が発生したときは、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。
- ④ 組合員は、共済金の支払を受けるべき損害があると認めるときは、遅滞なく、次の各号に掲げる事項をこの組合に通知しなければならない。
- (1) 共済事故の種類
 - (2) 共済事故の発生の年月日
 - (3) 共済事故により被害を受けた場所その他共済事故によって生じた損害の状況
 - (4) その他被害の状況が明らかとなる事項
- ⑤ 家畜共済に係る前項の通知は、獣医師の診断書又は検案書（第2条第2項第4号の場合においては、警察官の証明書又はこれに準ずる書類）を添付しなければならない。ただし、肉豚に係る通知又は種豚の死亡（火災、伝染性の疾病（家畜伝染病予防法第2条第1項に規定する家畜伝染病及び同法第4条第1項に規定する届出伝染病に限る。以下同じ。）又は風水害その他気象上の原因（地震及び噴火を含む。）によるものを除く。）に係る通知については、この限りでない。
- ⑥ 第4項の場合において、必要があると認めるときは、この組合は、死体の剖検をし又は廃用に係る家畜のと殺若しくは法令の規定によると殺処分に関する当該公務員の証明書を徴するものとする。また、第53条第1項に掲げるものを共済事故としない旨を組合員が申し出ているときは、この組合は、現地での確認が困難な場合は、火災にあつては出火の事実がわかる書類、気象上の原因による災害にあつては気象観測資料等を徴するものとし、伝染病にあつては家畜保健衛生所から病性鑑定書等の提出があつた場合を除き、最寄りの家畜保健衛生所に届出のあつた事実を確認するものとする。
- ⑦ この組合との間に第48条第5号の個別共済関係の存する者は、当該個別共済関係に係る共済目的たる家畜を他人に譲渡したとき、又はその家畜につき同条第14号の共済目的の種類を変更したときは、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。
- ⑧ 園芸施設共済に係る第108条第3項又は第4項の申出をした組合員は、第4項の規定による通知後、速やかに、復旧計画書（撤去又は復旧の実施予定日、復旧の内容等を記載したものをいう。）を提出しなければならない。
- ⑨ 園芸施設共済に係る第108条第3項又は第4項の申出をした組合員は、撤去又は復旧をしたときは、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。
- ⑩ 前項の規定による通知は、第120条第3項の特定園芸施設撤去費用額又は同条第5項の園芸施設復旧費用額に係る領収書又は請求書を添えて共済事故の発生した日から1年以内にしなければならない。ただし、当該共済事故に際し災害救助法（昭和22年法律第118号）が適用された市町村の区域内において撤去若しくは復旧が行われる場合又は施工業者若しくは復旧資材の不足その他組合員の責めに帰することができない事由により撤去若しくは復旧が滞った場合であつて、当該通知を1年以内にすることができないときは、当該1年が経過する前に組合の承認を受けて、3年を限り、その期間を延長することができる。

（損害の認定）

第17条 この組合が支払うべき共済金に係る損害の額の認定は、規則第82条の農林水産大臣が定める準則に従つてするものとする。

(損害評価会の意見聴取)

第18条 この組合は、その支払うべき農作物共済又は畑作物共済の共済金に係る損害の額を認定するに当たっては、あらかじめ損害評価会の意見を聴くものとする。

(共済金の支払方法)

第19条 共済金の組合員への支払は、附属書共済金支払規程で定めるところによるものとする。

(共済金の仮渡し)

第20条 この組合は、共済金の仮渡しをすることができる。

② 前項の規定により仮渡しをする金額の総額は、この組合が北海道農業共済組合連合会から受けた保険金の仮渡し額を下回らないものとする。

(支払責任のない損害)

第21条 この組合は、この規程に特別の定めがある場合のほか、次に掲げる損害については、共済金を支払う責めに任じないものとする。

- (1) 戦争その他の変乱によって生じた損害
- (2) 共済目的の性質又は瑕疵によって生じた損害（園芸施設共済事業に係る損害に限る。）
- (3) 組合員又はその法定代理人（組合員以外の者で共済金を受けるべき者があるときは、その者又はその者の法定代理人を含む。）の故意又は重大な過失によって生じた損害（組合員が損害賠償の責任を負うことによって生じることのある損失を填補するために、他人の所有するものを共済に付したときは、故意によって生じた損害。）
- (4) 組合員と同一の世帯に属する親族の悪意によって生じた損害（その親族が組合員に共済金を取得させる目的がなかった場合を除く。）

(危険の減少)

第22条 共済関係の成立後に、当該共済関係により填補することとされる損害の発生の可能性が著しく減少したときは、組合員は、この組合に対し、将来に向かって、共済掛金について、減少後の当該損害の発生の可能性に対応する共済掛金に至るまでの減額を請求することができる。

(共済関係の無効の場合の効果)

第23条 この組合は、共済関係の無効若しくは失効の場合又はこの組合が共済金支払の責任を免れる場合においても、すでに受け取った組合員負担共済掛金を返還しない。ただし、無効の場合において、組合員が善意であって、かつ、重大な過失がなかったときは、この限りでない。

(第三者に対する権利の取得)

第24条 この組合は、共済金の支払を行ったときは、次に掲げる額のうちいずれか少ない額を限度として、共済事故による損害が生じたことにより組合員が取得する債権（以下この条において「組合員債権」という。）について当然に組合員に代位する。

- (1) この組合が支払った共済金の額
- (2) 組合員債権の額(前号に掲げる額が共済関係により填補すべき損害の額に不足するときは、組合員債権

の額から当該不足額を控除した残額)

- ② 前項の場合において、同項第 1 号に掲げる額が共済関係により填補すべき損害の額に不足するときは、組合員は、組合員債権のうちこの組合が同項の規定により代位した部分を除いた部分について、当該代位に係る組合の債権に先立って弁済を受ける権利を有する。

(業務の委託)

第 25 条 この組合は、組合員負担共済掛金及び賦課金の徴収に係る事務(第 5 条の規定による督促を除く。)、損害防止のため必要な施設に係る事務、第 28 条第 1 項の農作物共済の申込書、第 50 条第 1 項の家畜共済の申込書、第 88 条第 1 項の畑作物共済の申込書又は第 108 条第 1 項の園芸施設共済の申込書の受理に係る事務、農作物に係る収穫物の生産数量、農作物に係る収穫物の品質若しくは価格又は施設園芸用施設に係る資材の購買数量若しくは価格の調査に係る事務並びに共済金の支払に係る事務(当該共済金に係る損害の額の認定に係るものを除く。)を、この組合の区域とする当該農業協同組合に委託することができるものとする。

第 2 章 農作物共済

(定 義)

第 26 条 この章において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによるものとする。

- (1) 類区分 法第 136 条第 1 項に規定する農作物共済の共済目的の種類をいう。
- (2) 全相殺方式による農作物共済 法第 136 条第 1 項第 1 号に掲げる金額を共済金額とする共済関係であつて、規則第 87 条第 1 項第 1 号に規定する全相殺方式を選択するものをいう。
- (3) 半相殺方式による農作物共済 法第 136 条第 1 項第 1 号に掲げる金額を共済金額とする共済関係であつて、規則第 87 条第 1 項第 2 号に規定する半相殺方式を選択するものをいう。
- (4) 地域インデックス方式による農作物共済 法第 136 条第 1 項第 1 号に掲げる金額を共済金額とする共済関係であつて、規則第 87 条第 1 項第 3 号に規定する地域インデックス方式を選択するものをいう。
- (5) 災害収入共済方式による農作物共済 法第 136 条第 1 項第 2 号に掲げる金額を共済金額とする共済関係をいう。
- (6) 農作物共済資格団体 法第 20 条第 1 項第 1 号に規定する農作物につき耕作の業務を営む者のみが構成員となっている農業共済資格団体をいう。
- (7) 全相殺方式資格者 類区分ごとに、その者が耕作する農作物に係る収穫量が、乾燥調製施設における計量結果(麦にあつては、乾燥調製施設における計量結果又は売渡数量)の調査(当該農作物に係る収穫物で乾燥調製施設に搬入されないものについては、検見又は実測)又は青色申告書(規則第 87 条第 3 項の青色申告書をいう。以下同じ。)及びその関係書類により適正に確認できる者(農作物共済資格団体を含む。)をいう。
- (8) 災害収入共済方式資格者 類区分ごとに、その者が耕作する農作物に係る収穫物のおおむね全量を原則として過去 5 年間において法第 133 条第 1 項の規定による資料の提供につき協力が得られる者に出荷しており、かつ、今後も当該収穫物のおおむね全量を当該資料の提供につき協力が得られる者に出荷することが確実であると見込まれる者(農作物共済資格団体を含む。)又は農作物に係る収穫量及び品質が青色申告書及びその関係書類若しくは実測により適正に確認できる者(農作物共済資格団体を含む。)をいう。

- (9) 一筆半損特約 規則第 87 条第 5 項の一筆半損特約をいう。
- (10) 統計単位地域 規則第 96 条第 1 項の統計単位地域をいう。

(共済関係の成立)

第 27 条 農作物共済の共済関係は、共済目的の種類ごと及び農作物の年産ごとに、組合員が耕作を行う農作物共済の共済目的たる農作物（次に掲げる事由に該当する農作物を除く。）の全てを農作物共済に付することを申し込み、この組合がこれを承諾することによって、成立するものとする。ただし、当該組合員の耕作に係る水稲のうちに定款第 11 条に規定する新規開田地等（同条ただし書の規定による指定を受けたものを除く。以下この項において同じ。）において耕作されるものがあるときは、当該水稲については、その者とこの組合との間に農作物共済の共済関係は、成立しないものとする。

- (1) 共済事故の発生が相当の確実さをもって見通されること。
 - (2) 当該農作物に係る第 35 条の基準収穫量又は同条の基準生産金額の適正な決定が困難であること。
 - (3) 当該農作物に係る損害の額の適正かつ円滑な認定が困難であること。
 - (4) 当該農作物の耕作が穀実の収穫を目的としないことその他当該農作物につき通常の肥培管理が行われず、又は行われないおそれがあること。
- ② 前項の規定による申込みは、次に掲げる期間に行うものとする。ただし、当該期間における申込みが困難である場合等にあつては、当該期間の開始前に申込みを行うことができるものとする。
- (1) 水 稲 5 月 1 日から 5 月 20 日まで
 - (2) 麦 8 月 20 日から 9 月 10 日まで
- ただし、春播麦のみを耕作する者（地域インデックス方式に加入する者を除く。）については、3 月 20 日から 4 月 10 日まで

(農作物共済の申込み)

第 28 条 組合員が農作物共済の申込み（前条第 1 項の規定による申込みをいう。以下同じ。）をしようとするときは、次の事項を記載した申込書をこの組合に提出するものとする。

- (1) 組合員の氏名及び住所（法人たる組合員にあつてはその名称、その代表者の氏名及びその事務所の所在地、農作物共済資格団体たる組合員にあつてはその名称並びにその代表者の氏名及び住所）
 - (2) 共済目的の種類、引受方式、補償割合及び単位当たり共済金額（災害収入共済方式を選択する場合にあつては共済金額）
 - (3) 耕地の所在地及び面積並びに当該耕地において栽培される農作物の品種、栽培方法、用途及び収穫時期
 - (4) 全相殺方式を選択する場合にあつては、収穫量の確認方法
 - (5) 災害収入共済方式を選択する場合にあつては、収穫量、品質及び生産金額の確認方法並びにその申込みに係る農作物共済の共済関係に係る農作物に係る収穫物の出荷計画
 - (6) 一筆半損特約を付するときはその旨
 - (7) 自動継続特約を付するときはその旨
 - (8) その他共済目的を明らかにすべき事項
- ② この組合は、農作物共済の申込みを受けたときは、当該農作物共済に係る共済責任期間の開始前までに、当該申込みを承諾するかどうかを決定して、不承諾の場合は当該共済責任期間の開始前まで、承諾の場合は共済掛金の払込期限の前までに、これを組合員に通知するものとする。この場合において、当該共済責

任期間の開始時において不承諾の通知が到達しないときは、その開始時前までに承諾されたものとする。

- ③ 第1項の申込書に記載した事項に変更（第16条第1項第1号に規定する共済目的の異動を除く。）が生じたときは、組合員は、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。

（申込みの承諾を拒む場合）

第29条 この組合は、組合員から農作物共済の申込みがあった場合において、共済目的の種類ごとに、その者の申込みに係る農作物が、その者が耕作を行う農作物共済の共済目的たる農作物でその申込みができるものの全てでないときは、当該申込みの承諾を拒むものとする。

（共済関係成立時の書面交付）

第30条 この組合は、農作物共済の共済関係が成立したときは、共済掛金の払込期限の前までに、組合員に対し、次に掲げる事項を記載した書面を交付するものとする。

- (1) 組合の名称
 - (2) 組合員の氏名又は名称
 - (3) 共済事故
 - (4) 共済責任期間の始期及び終期
 - (5) 共済金額
 - (6) 組合員の属する危険段階
 - (7) 類区分、引受方式、補償割合、単位当たり共済金額（災害収入共済方式を除く。）、引受面積、一筆半損特約の有無及び自動継続特約の有無
 - (8) 共済目的を特定するために必要な事項
 - (9) 組合員負担共済掛金及び賦課金並びにその支払の方法
 - (10) 第16条第1項第1号、第3項及び第4項並びに第28条第3項の通知をすべき事項
 - (11) 共済関係の成立年月日
 - (12) 書面を作成した年月日
- ② 前項の書面には、組合長が署名し、又は記名押印しなければならない。

（共済責任期間）

第31条 農作物共済の共済責任期間は、次の各号に掲げる期間とする。

- (1) 水稲については、本田移植期（直播をする場合にあつては、発芽期）から収穫をするに至るまでの期間
- (2) 麦については、発芽期（移植をする場合にあつては、移植期）から収穫をするに至るまでの期間

（引受方式の選択方法）

第32条 水稲及び麦に係る農作物共済の引受方式を選択するときは、次の表の第1欄に掲げる共済目的の種類（麦にあつては、同欄に定める区分）につき、同表の第2欄に掲げる区分のうち当該共済目的の種類のもので、それぞれ同表の第4欄に掲げる引受方式のいずれかを選択するものとする。この場合において、全相殺方式にあつては全相殺方式資格者、災害収入共済方式にあつては災害収入共済方式資格者に限り選

択できるものとする。

| 第1欄 | 第2欄 | 第3欄 | | 第4欄 | |
|-----|-------|------|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 水稻 | 第1区分 | 1類 | 一期作の水稻で、飼料用、バイオ燃料用及び米粉用以外の用途であるもの | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 | |
| | | 2類 | 一期作の水稻で、飼料用及びバイオ燃料用であるもの | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 | |
| | | 3類 | 一期作の水稻で、米粉用であるもの | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 | |
| | 第2区分 | 2類 | 一期作の水稻で、飼料用及びバイオ燃料用であるもの | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 | |
| | | 7類 | 飼料用及びバイオ燃料用以外の用途である水稻 | 地域インデックス方式 | |
| 麦 | 小麦 | 第1区分 | 1類 | 秋期に播種する小麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |
| | | | 2類 | 春期に播種する小麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |
| | | 第2区分 | 3類 | 田で耕作する小麦 | 地域インデックス方式 |
| | | | 4類 | 畑で耕作する小麦 | 地域インデックス方式 |
| | 二条大麦 | 第1区分 | 5類 | 秋期に播種する二条大麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |
| | | | 6類 | 春期に播種する二条大麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |
| | | 第2区分 | 7類 | 田で耕作する二条大麦 | 地域インデックス方式 |
| | | | 8類 | 畑で耕作する二条大麦 | 地域インデックス方式 |
| | 六条大麦 | 第1区分 | 9類 | 秋期に播種する六条大麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |
| | | 第2区分 | 10類 | 田で耕作する六条大麦 | 地域インデックス方式 |
| | | | 11類 | 畑で耕作する六条大麦 | 地域インデックス方式 |
| | 裸麦 | 第1区分 | 12類 | 秋期に播種する裸麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |
| | | 第2区分 | 13類 | 田で耕作する裸麦 | 地域インデックス方式 |
| | | | 14類 | 畑で耕作する裸麦 | 地域インデックス方式 |
| | その他の麦 | 第1区分 | 15類 | 秋期に播種するその他の麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |
| | | | 16類 | 春期に播種するその他の麦 | 全相殺方式、半相殺方式及び災害収入共済方式 |

(組合員負担共済掛金の金額及びその徴収方法)

第33条 水稻に係る農作物共済に係る組合員負担共済掛金の金額は、類区分ごとに、第36条の規定により算定した組合員が支払うべき共済掛金から、当該組合員に係る共済金額に当該組合員に係る農作物基準共済掛金率（法第137条第1項の基準共済掛金率をいう。以下同じ。）を乗じて得た金額の2分の1に相当する金額（組合員負担共済掛金の一部に充てるための補助金がある場合にあつては、当該金額及び当該補助金の金額）を差し引いて得た金額とする。

② 麦に係る農作物共済に係る組合員負担共済掛金の金額は、類区分ごとに、第36条の規定により算定した組合員が支払うべき共済掛金から、当該組合員に係る共済金額に当該組合員に係る農作物基準共済掛金率及び農作物共済掛金国庫負担割合（法第10条第2項の農作物共済掛金国庫負担割合をいう。）を乗じて得た金額（組合員負担共済掛金の一部に充てるための補助金がある場合にあつては、当該金額及び当該補助金の金額）を差し引いて得た金額とする。

〔事業規程〕

- ③ 組合員負担共済掛金の払込みの告知は、払い込むべき金額、払込期日及び払込場所を記載した書面をもってするものとする。

(組合員負担共済掛金の払込期限)

第34条 第27条第1項の規定によりこの組合との間に農作物共済の共済関係が成立した者は、農作物共済に係る組合員負担共済掛金を次の各号に掲げる期日までにこの組合に払い込まなければならない。

- (1) 水 稲 7月20日
 (2) 麦1類、3類、4類、5類、7類、8類、9類、10類、11類、12類、13類、14類、15類 1月31日
 (3) 麦2類、6類、16類 6月30日

(共済金額)

第35条 農作物共済の共済金額は、類区分ごとに、次の表の左欄に掲げる引受方式に応じ、同表の右欄に掲げる式によって算定される金額とする。

| | |
|-------------------------|--|
| 全相殺方式、半相殺方式及び地域インデックス方式 | 共済金額 = 基準収穫量×補償割合×単位当たり共済金額 |
| 災害収入共済方式 | 共済金額 = 基準生産金額の40%以上共済限度額以下の金額の範囲内で組合員が申し出た金額 共済限度額 = 基準生産金額×補償割合 |

- ② 基準収穫量は、組合員ごと及び類区分ごとに、規則第90条の準則に従い、この組合が定めるものとする。
 ③ 補償割合は、類区分ごとに、次の表の左欄に掲げる引受方式に応じ、同表の右欄に掲げる割合から組合員が選択するものとする。

| 引受方式 | 補償割合 |
|----------------------------|-------------|
| 全相殺方式、地域インデックス方式及び災害収入共済方式 | 90%、80%、70% |
| 半相殺方式 | 80%、70%、60% |

- ④ 単位当たり共済金額は、類区分ごとに、規則第91条第1項の規定により農林水産大臣が定める2以上の金額から、組合員が申し出た金額とする。
 ⑤ 基準生産金額は、組合員ごと及び類区分ごとに、規則第94条の準則に従い、この組合が定める金額とする。

(共済掛金)

第36条 農作物共済の共済掛金は、類区分ごとに、次の式によって算定される金額とする。

$$\text{共済掛金} = \text{共済金額} \times \text{共済掛金率}$$

- ② 共済掛金率は、この組合が総会又は総代会の議決を経て定めた共済掛金率のうち、当該組合員の危険段階区分に係るものを適用する。

(自動継続特約の締結)

第37条 この組合は、農作物共済の申込みの承諾の際、組合員からの申出により、翌年以降の年産の農作物について第27条第2項の申込期間が終了するまでに当該組合員から農作物共済の申込みをしない旨の意思表示がないときにおいて当該農作物共済の申込みがあったとする旨の特約（以下「農作物共済自動継続特約」という。）をすることができる。

- ② この組合は、農作物共済自動継続特約を付した農作物共済について、申込期間が終了するまでに、前年

産の共済関係の内容を示すとともに、当該組合員からその内容の変更の申出がある場合は、これを変更するものとする。

(農作物共済掛金率等一覧表の備置き及び閲覧)

第38条 理事は、農作物共済の共済掛金率、共済掛金率のうち組合員が負担する部分の率、単位当たり共済金額等を記載した農作物共済掛金率等一覧表を作成し、これを事務所に備えて置かなければならない。ただし、当該一覧表の内容を、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録及び保存をすれば、その作成と備置きを行わないものとするができる。

- ② 理事は、類区分ごとに、毎年、第 27 条第 2 項の申込期間が開始する日の 10 日前までに、前項に掲げる事項を公告しなければならない。
- ③ 組合員は、いつでも、第 1 項の農作物共済掛金率等一覧表の閲覧を求めることができる。

(共済金の支払額)

第 39 条 全相殺方式、半相殺方式又は地域インデックス方式による農作物共済に係る共済金は、類区分ごとに、次の表の左欄に掲げる引受方式に応じ、同表の右欄に掲げる式によって算定される金額とする。

| | |
|------------|--|
| 全相殺方式 | 共済金（組合員ごと）＝ 共済減収量×単位当たり共済金額 共済減収量＝ 減収量-支払開始減収量 減収量＝ 組合員の基準収穫量-組合員の収穫量 支払開始減収量＝ 組合員の基準収穫量×（1-補償割合） |
| 半相殺方式 | 共済金（組合員ごと）＝ 共済減収量×単位当たり共済金額 共済減収量＝ 減収量-支払開始減収量 減収量＝ 耕地ごとの減収量の合計 耕地ごとの減収量＝ 耕地別基準収穫量-耕地の収穫量 支払開始減収量＝ 組合員の基準収穫量×（1-補償割合） |
| 地域インデックス方式 | 共済金（組合員ごと及び統計単位地域ごと）＝ 共済減収量×単位当たり共済金額 共済減収量＝ 減収量-支払開始減収量 減収量＝（基準統計単収-その年産の統計単収）×耕作面積 支払開始減収量＝ 基準統計単収×耕作面積×（1-補償割合） 基準統計単収＝ 過去一定年間における統計単収の平均 （注）共済事故の発生していない者については、共済減収量はないものとする。 |

- ② 移植不能耕地がある場合における全相殺方式及び半相殺方式における減収量は、実損害を勘案して農林水産大臣が定めるところにより一定の調整を加えて算定される数量とする。
- ③ 収穫量は、全相殺方式又は半相殺方式にあつては規則第 82 条の準則に従い認定されたものとする。

④ 全相殺方式、半相殺方式又は地域インデックス方式において全損耕地（一筆半損特約をした共済関係にあつては、全損耕地及び半損耕地）がある場合における共済金は、第1項の規定にかかわらず、次のとおりとする。

(1) 全損耕地がある場合（第3号の場合を除く。）にあつては、組合員ごと及び類区分ごと（地域インデックス方式にあつては、組合員ごと、統計単位地域ごと及び類区分ごと）に、次の式によって算定される金額と第1項の規定により算定される金額のいずれか大きい金額

| | |
|------------|---|
| 共済金 | = 全損耕地の共済減収量×単位当たり共済金額 |
| 全損耕地の共済減収量 | = 全損耕地減収量の合計-支払開始減収量 |
| 全損耕地減収量 | = 全損耕地の耕地別基準収穫量を基礎とし、移植不能耕地にあつては実損害を勘案して、農林水産大臣が定めるところにより一定の調整を加えて算定される数量 |
| 支払開始減収量 | = 全損耕地の耕地別基準収穫量の合計×全損耕地支払開始割合 |
| 全損耕地支払開始割合 | = 次の表の左欄に掲げる引受方式につき、同表の中欄の補償割合に応じ同表の右欄に掲げる割合 |

| 引受方式 | 補償割合 | 全損耕地支払開始割合 |
|-------------------|------|------------|
| 全相殺方式及び地域インデックス方式 | 90% | 30/100 |
| | 80% | 40/100 |
| | 70% | 50/100 |
| 半相殺方式 | 80% | 30/100 |
| | 70% | 40/100 |
| | 60% | 50/100 |

(2) 半損耕地がある場合（一筆半損特約がある場合に限り、次号の場合を除く。）にあつては、組合員ごと及び類区分ごと（地域インデックス方式にあつては、組合員ごと、統計単位地域ごと及び類区分ごと）に、次の式によって算定される金額と第1項の規定により算定される金額のいずれか大きい金額

| | |
|------------|---|
| 共済金 | = 半損耕地の共済減収量×単位当たり共済金額 |
| 半損耕地の共済減収量 | = 半損耕地減収量の合計-支払開始減収量 |
| 半損耕地減収量 | = 半損耕地の耕地別基準収穫量の2分の1に相当する数量を基礎として、農林水産大臣が定めるところにより算定される数量 |
| 支払開始減収量 | = 半損耕地の耕地別基準収穫量の合計×半損耕地支払開始割合 |
| 半損耕地支払開始割合 | = 次の表の左欄に掲げる引受方式につき、同表の中欄の補償割合に応じ同表の右欄に掲げる割合 |

| 引受方式 | 補償割合 | 半損耕地支払開始割合 |
|-------------------|------|-------------------|
| 全相殺方式及び地域インデックス方式 | 90% | 30/100 |
| | 80% | 50/100-20/100×6/7 |
| | 70% | 50/100-20/100×5/7 |
| 半相殺方式 | 80% | 30/100 |
| | 70% | 50/100-20/100×6/7 |
| | 60% | 50/100-20/100×5/7 |

(3) 全損耕地及び半損耕地がある場合（一筆半損特約がある場合に限る。）にあつては、組合員ごと及び類区分ごと（地域インデックス方式にあつては、組合員ごと、統計単位地域ごと及び類区分ごと）に、前2号の式によって算定される金額の合計額と第1項の規定により算定される金額のいずれか大きい金額

第 40 条 災害収入共済方式による農作物共済に係る共済金は、類区分ごとに、共済事故による農作物の減収又は品質の低下（規則第 98 条に定めるものに限る。）がある場合において、次の式によって算定される金額とする。

$$\text{共済金（組合員ごと）} = (\text{共済限度額} - \text{生産金額}) \times \text{共済金額} / \text{共済限度額}$$

- ② 生産金額は、組合員ごと及び類区分ごとに、規則第 82 条の準則に従い認定された農作物の生産金額とする。
- ③ 前項の生産金額は、全損耕地（一筆半損特約をした共済関係にあつては、全損耕地及び半損耕地）がある場合は、同項の規定にかかわらず、次のとおりとする。
- (1) 全損耕地がある場合（第 3 号の場合を除く。）にあつては、組合員ごと及び類区分ごとに、共済限度額から次の金額を差し引いて得た金額と前項の生産金額のいずれか小さい金額とする。

全損耕地の耕地別基準生産金額の総額に全損耕地補償割合を乗じて得た金額を基礎として、移植不能耕地がある場合にあつては実損害を勘案して、農林水産大臣が定めるところにより一定の調整を加えて算定される金額
 全損耕地補償割合 = 次の表の左欄に掲げる補償割合に応じ同表の右欄に掲げる割合

| 補償割合 | 全損耕地補償割合 |
|------|----------|
| 90% | 70% |
| 80% | 60% |
| 70% | 50% |

- (2) 半損耕地がある場合（一筆半損特約がある場合に限り、次号の場合を除く。）にあつては、組合員ごと及び類区分ごとに、共済限度額から次の式によって算定される金額を差し引いて得た金額と第 2 項の生産金額のいずれか小さい金額とする。

半損耕地の耕地別基準生産金額の総額×半損耕地補償割合-半損耕地生産金額の総額
 半損耕地補償割合 = 次の表の左欄に掲げる補償割合に応じ同表の右欄に掲げる割合
 半損耕地生産金額
 = 半損耕地の耕地別基準生産金額の 2 分の 1 の金額を基礎として農林水産大臣が定めるところにより算定される金額

| 補償割合 | 半損耕地補償割合 |
|------|-------------------|
| 90% | 70/100 |
| 80% | 50/100+20/100×6/7 |
| 70% | 50/100+20/100×5/7 |

- (3) 全損耕地及び半損耕地がある場合（一筆半損特約がある場合に限る。）にあつては、組合員ごと及び類区分ごとに、共済限度額から前 2 号の式によって算定される金額の合計額を差し引いて得た金額と第 2 項に規定する金額のいずれか小さい金額とする。
- ④ 耕地別基準生産金額は、組合員ごと、耕地ごと及び類区分ごとに、規則第 99 条第 4 項の準則に従い、この組合が定める金額とする。

（共済金額の削減）

第 41 条 この組合は、農作物共済の共済金の支払に不足を生ずる場合には、次に掲げる金額の合計金額をその支払に充ててもなお不足を生ずる場合に限り、共済金額を削減することができる。

- (1) 農作物共済に係る定款第 54 条の不足金填補準備金の金額
 (2) 農作物共済に係る定款第 56 条の特別積立金の金額

(共済金の支払の免責等)

第42条 次の場合には、この組合は、共済金の全部又は一部につき、支払の責任を免れるものとする。

- (1) 組合員が第12条第1項の規定による義務を怠ったとき。
- (2) 組合員が第13条の規定による指示に従わなかったとき。
- (3) 組合員が第16条第1項第1号、第3項又は第4項の規定による通知を怠り、又は悪意若しくは重大な過失によって不実の通知をしたとき。
- (4) 組合員が正当な理由がないのに組合員負担共済掛金の払込みを遅滞したとき。
- (5) 農作物共済の申込みをした組合員が、当該申込みの際、当該申込みに係る農作物に関する次に掲げる事実又は事項につき、悪意又は重大な過失によってこれを通知せず、又は不実の通知をしたとき（この組合がこれを知っていたとき、及び過失によってこれを知らなかったときを除く。）。

イ 共済目的の種類

ロ 第28条第1項第3号に掲げる事項

ハ 共済関係について災害収入共済方式を選択する場合にあつては、当該共済関係に係る農作物に係る収穫物の出荷計画

- ② この組合は、法第136条第1項の規定により栽培方法に応ずる区分が定められた共済目的の種類に係る農作物につき、組合員がその栽培方法を同項の規定により定められた区分で当該農作物に適用されるものに係る栽培方法以外のものに変更した場合には、その変更の結果通常生ずべき損失の額については、当該組合員に対して共済金の支払の義務を有しない。
- ③ この組合は、組合員が植物防疫法（昭和25年法律第151号）の規定に違反した場合には、当該違反行為の結果通常生ずべき損失の額については、当該組合員に対して共済金の支払の義務を有しない。

(告知義務違反による解除)

第43条 組合員は、農作物共済の申込みの当時、農作物共済の共済関係が成立することにより填補することとされる損害の発生の可能性に関する重要な事項のうちこの組合が告知を求めたものについて、事実の告知をしなければならない。

- ② この組合は、組合員が、前項に基づきこの組合が告知を求めたものについて、故意若しくは重大な過失により事実の告知をせず、又は不実の告知をしたときは、当該農作物共済の共済関係を解除することができる。
- ③ この組合は、前項の規定にかかわらず、次に掲げる場合には、共済関係を解除することができない。
 - (1) 農作物共済の申込みの承諾の当時において、この組合が前項の事実を知り、又は過失によって知らなかったとき。
 - (2) この組合のために共済関係の成立のための行為の媒介を行うことができる者（この組合のために共済関係の成立のための行為の代理を行うことができる者を除く。以下「共済媒介者」という。）が、組合員が第1項の事実の告知をすることを妨げたとき。
 - (3) 共済媒介者が、組合員に対し、第1項の事実の告知をせず、又は不実の告知をすることを勧めたとき。
- ④ 前項第2号及び第3号の規定は、当該各号に規定する共済媒介者の行為がなかったとしても組合員が第1項の事実の告知をせず、又は不実の告知をしたと認められる場合には、適用しない。
- ⑤ 第2項の規定による解除権は、この組合が同項の規定による解除の原因があることを知った時から1か月間行使しないときは、消滅する。農作物共済の申込みの承諾の時から6か月を経過したときも、同様とする。

(共済掛金不払の場合の共済関係の解除)

第 44 条 組合員が正当な理由がないのに第 34 条の規定による払込みを遅滞したときは、この組合は、当該農作物共済の共済関係を解除するものとする。

(重大事由による解除)

第 45 条 この組合は、次に掲げる事由がある場合には、農作物共済の共済関係を解除するものとする。

- (1) 組合員が、この組合に当該共済関係に基づく共済金の給付を行わせることを目的として損害を生じさせ、又は生じさせようとしたこと。
- (2) 組合員が、当該共済関係に基づく共済金の給付の請求について詐欺を行い、又は行おうとしたこと。
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、この組合の組合員に対する信頼を損ない、当該共済関係の存続を困難とする重大な事由

(解除の効力)

第 46 条 農作物共済の共済関係の解除は、将来に向かってのみその効力を生ずる。

② この組合は、次の各号に掲げる規定により共済関係の解除をした場合には、当該各号に定める損害を填補する責任を負わない。

- (1) 第 43 条第 2 項 解除がされた時までに発生した共済事故による損害。ただし、同項の事実に基づかずに発生した共済事故による損害については、この限りでない。
- (2) 第 44 条 解除がされた時までに発生した共済事故による損害
- (3) 前条 同条各号に掲げる事由が生じたときから解除がされた時までに発生した共済事故による損害

(共済金支払額、減収量等の公告)

第 47 条 この組合は、共済金の支払額の決定後遅滞なく、組合員ごとに、共済金の支払額、共済減収量（災害収入共済方式にあつては生産金額の減少額及び減収量（規則第 98 条第 2 号に掲げる数量から同条第 1 号に掲げる数量を差し引いて得た数量をいう。）、共済金の支払期日及び支払方法を公告するものとする。

第 3 章 家 畜 共 済

第 1 節 通 則

(定 義)

第 48 条 この章において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによるものとする。

- (1) 包括共済家畜区分 次号及び第 3 号の区分の総称をいう。
- (2) 包括共済家畜区分（死産） 規則第 101 条第 1 項に規定する区分をいう。
- (3) 包括共済家畜区分（病傷） 規則第 101 条第 2 項に規定する区分をいう。
- (4) 包括共済関係 第 49 条第 1 項の規定により成立する共済関係をいう。
- (5) 個別共済関係 第 49 条第 2 項又は第 3 項の規定により成立する共済関係をいう。
- (6) 搾乳牛 規則第 101 条第 1 項第 1 号の搾乳牛をいう。
- (7) 繁殖用雌牛 規則第 101 条第 1 項第 2 号の繁殖用雌牛をいう。
- (8) 育成乳牛 規則第 101 条第 1 項第 3 号の育成乳牛をいう。

- (9) 育成・肥育牛 規則第 101 条第 1 項第 4 号の育成・肥育牛をいう。
- (10) 繁殖用雌馬 規則第 101 条第 1 項第 5 号の繁殖用雌馬をいう。
- (11) 育成・肥育馬 規則第 101 条第 1 項第 6 号の育成・肥育馬をいう。
- (12) 乳用牛 規則第 101 条第 2 項第 1 号の乳用牛をいう。
- (13) 肉用牛 規則第 101 条第 2 項第 2 号の肉用牛をいう。
- (14) 共済目的の種類 法第 144 条第 1 項及び第 2 項の共済目的の種類をいう。

(共済関係の成立)

第 49 条 包括共済家畜区分に係る家畜共済の共済関係は、組合員が、当該区分ごとに、その飼養する当該区分に属する家畜（第 54 条第 1 項又は第 2 項の規定による申出をしない組合員については、死亡廃用共済にあつては子牛等、疾病傷害共済にあつては子牛を除く。）を一体として家畜共済に付することを申し込み、この組合がこれを承諾することによって、成立するものとする。

- ② 種雄牛又は種雄馬に係る家畜共済の共済関係は、家畜ごとに、組合員がその飼養する種雄牛又は種雄馬（牛にあつては 12 歳以下のもの、馬にあつては明け 17 歳未満のものに限る。）を家畜共済に付することを申し込み、この組合がこれを承諾することによって、成立するものとする。
- ③ 包括共済家畜区分に属する家畜（子牛等及び肉豚を除く。以下この項において同じ。）であつて、次の各号に掲げる事由があるもの（牛にあつては 12 歳以下のもの、馬にあつては明け 17 歳未満のもの、種豚にあつては 6 歳以下のものに限る。）については、第 1 項の規定にかかわらず、前項の規定の例により家畜共済の共済関係を成立させることができる。
 - (1) この組合が当該組合員からの第 1 項の規定による申込みにつき、第 51 条第 1 号の理由があるためその承諾を拒んだこと（同号の理由がなくなった場合を除く。）。
 - (2) 同一の包括共済家畜区分に属する家畜につき当該組合員との間に個別共済関係が存していること。
- ④ 個別共済関係に付された家畜が、牛にあつては 13 歳、馬にあつては明け 17 歳、種豚にあつては 7 歳に該当するに至ったときは、その 2 年以上前から引き続いて当該個別共済関係が存している場合を除いて、その該当することとなった時の属する共済掛金期間の満了の時に当該個別共済関係は消滅する。

(家畜共済の申込み)

第 50 条 組合員が家畜共済の申込み（前条の規定による申込みをいう。以下同じ。）をしようとするときは、次に掲げる事項（同条第 2 項又は第 3 項の規定による申込みにあつては、第 4 号から第 6 号までの事項を除く。）を記載した申込書をこの組合に提出するものとする。

- (1) 組合員の氏名及び住所（法人たる組合員にあつては、その名称、その代表者の氏名及びその事務所の所在地）
- (2) 家畜共済の種類
- (3) 前条第 1 項の規定による申込みにあつては包括共済家畜区分、同条第 2 項又は第 3 項の規定による申込みにあつては共済目的の種類
- (4) 包括共済関係にあつては申込みの際現に飼養している家畜で当該申込みに係るものの頭数
- (5) 包括共済関係にあつては申込みの際現に飼養している家畜で当該申込みに係るものうち、疾病にかかり、又は傷害を受けているものの頭数
- (6) 死亡廃用共済の包括共済関係にあつては、包括共済家畜区分ごとに、共済掛金期間中に飼養することが見込まれる家畜の頭数（肉豚を除く。）

- (7) 申込みに係る家畜の飼養場所
- (8) その他共済目的を明らかにすべき事項
- ② この組合は、家畜共済の申込みを受けたときは、当該申込みを承諾するかどうかを決定して、これを組合員に通知するものとする。この場合において、前条第2項又は第3項の規定による申込みを受けたときは、当該家畜の健康診断を行うものとする。
- ③ 第1項の申込書に記載した事項に変更（第1項第6号の頭数の変更並びに第16条第1項第2号から第4号まで及び同条第7項の規定による異動を除く。）が生じたときは、組合員は、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。
- ④ 組合員は、当該共済掛金期間の終了の日前に、次の共済掛金期間に係る継続加入通知書をこの組合に提出するものとする。
- ⑤ 前項の場合には、第1項（第5号を除く。）及び第3項の規定を準用する。

（申込みの承諾を拒む場合）

第51条 この組合は、組合員から家畜共済の申込みを受けた場合において、その申込みにつき、包括共済関係にあつては第1号又は第2号、個別共済関係にあつては第3号から第5号までのいずれかに掲げる事由があるときは、当該申込みの承諾を拒むものとする。

- (1) その申込みに係る家畜のうち第3号から第5号までに掲げるものがあるため、その申込みを承諾するとすれば、当該家畜と同一の包括共済家畜区分に属する家畜をこの組合の家畜共済の包括共済関係に係る家畜共済に付している者との間に著しく衡平を欠くこととなるおそれがあること。
- (2) 個体識別番号の利用、組合員が記録する飼養、管理等の記録（帳簿等）の利用等の方法により家畜の飼養頭数を効率的に確認することについての組合員の協力を得られないこと。
- (3) その申込みに係る家畜が発育不全、衰弱、奇形、不具若しくは悪癖の著しいもの又は第49条第2項若しくは第3項の年齢に適合しないものであること。
- (4) その申込みに係る家畜が疾病にかかり、又は傷害を受けているものであること。
- (5) その申込みに係る家畜が通常の飼養管理又は供用の方法と著しく異なる方法で飼養管理され、若しくは供用され、又はそのおそれがあり、その飼養管理又は供用の方法からみて当該家畜と同種の家畜と比べて共済事故の発生する度合いが著しく大きいと認められること。

（共済関係の消滅）

第52条 包括共済関係の成立の際、その成立により家畜共済に付されることとなった家畜につき既に個別共済関係が成立していたときは、当該包括共済関係に係る共済責任の始まる時に、その成立していた個別共済関係は、消滅するものとする。

- ② 特定肉豚に係る死亡廃用共済の包括共済関係の成立の際、その成立により死亡廃用共済に付されることとなった肉豚につき既に群単位肉豚に係る死亡廃用共済の包括共済関係が成立しているときは、当該特定肉豚に係る死亡廃用共済の包括共済関係に係る共済責任の始まる時に、その成立していた群単位肉豚に係る死亡廃用共済の包括共済関係は、消滅するものとする。
- ③ この組合との間に特定肉豚に係る包括共済関係の存する者が第2条第1項第2号へに規定する者となったときは、その時に、その成立していた当該特定肉豚に係る包括共済関係は、消滅するものとする。
- ④ 前3項に規定する場合において、この組合は、消滅する家畜共済の共済関係に係る共済掛金及び組合員が支払った賦課金のうち、まだ経過しない共済掛金期間に対応する部分の金額を日割で計算した金額を組

合員に返還するものとする。

(共済事故の一部除外)

第 53 条 この組合との間に包括共済家畜区分（死廃）（群単位肉豚を除く。この条において同じ。）に係る死亡廃用共済の包括共済関係の存する者は、当該包括共済家畜区分（死廃）ごと及び共済掛金期間ごとに、当該共済掛金期間の開始する 2 週間前までに、この組合に対し、次の表の左欄に掲げる包括共済家畜区分（死廃）に応じ、同表の右欄に掲げるものを共済事故としない旨の申出をすることができる。

| 包括共済家畜区分 (死廃) | 共済事故としないもの |
|------------------|--|
| 搾乳牛、育成乳牛 | 次に掲げるいずれかの共済事故 イ 火災、伝染性の疾病又は風水害その他気象上の原因(地震及び噴火を含む。)による死亡及び廃用以外の死亡及び廃用 ロ 火災、伝染性の疾病又は風水害その他気象上の原因(地震及び噴火を含む。)による廃用以外の廃用 ハ 第 2 条第 2 項第 5 号及び第 6 号に掲げる場合における廃用 |
| 繁殖用雌牛、育成・肥育牛 | 次に掲げるいずれかの共済事故 イ 火災、伝染性の疾病又は風水害その他気象上の原因(地震及び噴火を含む。)による死亡及び廃用以外の死亡及び廃用 ロ 火災、伝染性の疾病又は風水害その他気象上の原因(地震及び噴火を含む。)による廃用以外の廃用 ハ 第 2 条第 2 項第 1 号から第 3 号までに掲げる場合における廃用 |
| 繁殖用雌馬、育成・肥育馬 | 火災、伝染性の疾病又は風水害その他気象上の原因(地震及び噴火を含む。)による死亡及び廃用以外の死亡及び廃用 |
| 種豚 | 次に掲げるいずれかの共済事故 イ 火災、伝染性の疾病又は風水害その他気象上の原因(地震及び噴火を含む。)による死亡及び廃用以外の死亡及び廃用 ロ 第 2 条第 2 項第 1 号から第 3 号までに掲げる場合における廃用 |
| 特定肉豚 | 火災、伝染性の疾病(家畜伝染病予防法第 4 条第 1 項に規定する届出伝染病にあっては、農林水産大臣が指定するものに限る。)又は風水害その他気象上の原因(地震及び噴火を含む。)による死亡以外の死亡 |

② 前項の申出は、その者に係る家畜の飼養に関する条件が、次の表の左欄に掲げる包括共済家畜区分（死廃）に応じ、同表の右欄に掲げる基準に適合するときに限り、することができる。

| 包括共済家畜区分 (死廃) | 基 準 |
|------------------------------|---|
| 搾乳牛、育成乳牛 | 次に掲げる要件のいずれにも該当すること。 イ 当該共済掛金期間の開始の時に現に飼養する搾乳牛又は育成乳牛の頭数が 6 頭以上であること。 ロ 搾乳牛又は育成乳牛につき、当該共済掛金期間の開始前 5 年間にわたり引き続き養畜の業務を営んだ経験を有すること。 |
| 繁殖用雌牛、育成・肥育牛、繁殖用雌馬、育成・肥育馬、種豚 | 当該包括共済家畜区分に係る家畜につき、当該共済掛金期間の開始前 5 年間にわたり引き続き養畜の業務を営んだ経験を有すること。 |
| 特定肉豚 | 次に掲げる要件のいずれにも該当すること。 イ 当該共済掛金期間の開始の時に現に飼養する肉豚の頭数が 200 頭以上であること。 ロ 肉豚につき、当該共済掛金期間の開始前 5 年間にわたり引き続き養畜の業務を営んだ経験を有すること。 |

③ 第 1 項の申出があったときは、当該包括共済関係においては、当該申出に係る共済掛金期間内は、第 2

条第1項第2号の規定にかかわらず、同号の共済事故のうち当該申出に係るものを共済事故としないものとする。

(子牛等を共済目的とすることの申出)

第54条 この組合との間に育成乳牛又は育成・肥育牛に係る死亡廃用共済の包括共済関係の存する者は、当該包括共済関係ごと及び共済掛金期間ごとに、当該共済掛金期間の開始する2週間前までに、この組合に対し、子牛等を共済目的とする旨の申出をすることができる。

② この組合との間に乳用牛又は肉用牛に係る疾病傷害共済の包括共済関係の存する者は、当該包括共済関係ごと及び共済掛金期間ごとに、当該共済掛金期間の開始する2週間前までに、この組合に対し、子牛を共済目的とする旨の申出をすることができる。

③ 前2項の申出があったときは、当該包括共済関係においては、当該申出に係る共済掛金期間内は、死亡廃用共済にあつては子牛等、疾病傷害共済にあつては子牛を共済目的とするものとする。

(共済責任の開始)

第55条 家畜共済に係る共済責任(次項に規定するものを除く。)は、この組合が組合員から組合員負担共済掛金の払込み(共済掛金の分割支払がされる場合にあつては、その第1回の支払)を受けた日の翌日から始まる。ただし、包括共済家畜区分に属する家畜(群単位肉豚を除く。)であつて、その日以後飼養するに至ったものにあつては、その飼養するに至った時から始まる。

② 共済責任開始の日を統一するため必要がある場合において、この組合が組合員との協議により特定の家畜共済の共済関係について特定の日に関済責任が始まる旨を定めたときは、前項本文の規定にかかわらず、当該共済関係に係る共済責任は、その特定の日から始まる。この場合には、前項ただし書の規定を準用する。

(共済関係成立時等の書面交付)

第56条 この組合は、家畜共済の共済関係が成立したとき及び共済掛金期間が開始したとき(最初の共済掛金期間が開始したときを除く。)は、遅滞なく、組合員に対し、次に掲げる事項を記載した加入証を交付するものとする。

- (1) 組合の名称
- (2) 組合員の氏名又は名称
- (3) 死亡廃用共済又は疾病傷害共済の別
- (4) 第49条第1項の規定による申込みにあつては包括共済家畜区分及び子牛等の選択の有無、同条第2項又は第3項の規定による申込みにあつては共済目的の種類
- (5) 死亡廃用共済にあつては、包括共済家畜区分ごとに、共済掛金期間中に飼養されることが見込まれる家畜の頭数(肉豚を除く。)
- (6) 共済事故
- (7) 共済掛金期間の始期及び終期
- (8) 共済金額並びに死亡廃用共済にあつては付保割合及び共済金の支払限度額
- (9) 組合員の属する危険段階
- (10) 共済目的を特定するために必要な事項
- (11) 組合員負担共済掛金及び賦課金並びにその支払の方法

(12) 第16条第1項第2号から第4号まで、第2項から第7項まで、第50条第3項及び第58条の通知等をするべき事項

(13) 共済関係の成立年月日

(14) 書面を作成した年月日

② 前項の書面には、組合長が署名し、又は記名押印しなければならない。

③ 組合員は、当該家畜につき診療を受けようとするときは、第1項の加入証を提示しなければならない。

(共済掛金期間)

第57条 家畜共済に係る共済掛金期間は、1年（群単位肉豚に係るものにあつては、出生後第20日の日（その日に離乳していないときは、離乳した日）から出生後第8月の月の末日までの期間。次項において同じ。）とする。

② この組合は、共済掛金期間の始期又は終期を統一するため必要があるときは、前項の規定にかかわらず、家畜共済に係る共済掛金期間を1年未満とすることができる。

③ 家畜共済に係る最初の共済掛金期間は、第55条第1項本文又は第2項前段の規定により家畜共済に係る共済責任の始まる時に開始する。

(損害防止の指導)

第58条 次の場合には、組合員は、あらかじめ、その旨をこの組合に通知し、損害防止のため必要な指導を受けるものとする。

(1) 共済目的である家畜に対して去勢その他重大な手術をするとき。

(2) 共済目的である家畜を放牧するとき。

(3) 共済目的である家畜を家畜市場に出場させ、又は共進会等に出品するとき。

(4) 共済目的である家畜を長期にわたりこの組合の区域外において飼養するとき。

② 次の場合には、組合員は、遅滞なく、その旨をこの組合に通知し、損害防止のため必要な指導を受けるものとする。

(1) 共済目的である家畜が疾病にかかり、又は著しい傷害を受けたとき。

(2) 共済目的である家畜が行方不明になったとき。

(共済金の支払の免責)

第59条 次の場合には、この組合は、家畜共済に係る共済金の全部又は一部につき、支払の責任を免れるものとする。

(1) 組合員が第12条第1項の規定による義務を怠ったとき。

(2) 組合員が第13条の規定による指示に従わなかったとき。

(3) 組合員が第16条第1項第2号から第4号まで、第3項又は第4項の規定による通知を怠り、又は悪意若しくは重大な過失によって不実の通知をしたとき。

(4) 組合員が正当な理由がないのに組合員負担共済掛金の払込みを遅滞したとき。

(5) 家畜共済の申込みをした組合員が、当該申込みの際、当該申込みに係る家畜に関する次に掲げる事項又は事実につき、悪意又は重大な過失によってこれを通知せず、又は不実の通知をしたとき（この組合がこれを知っていたとき及び過失によってこれを知らなかったときを除く。）。

イ 第50条第1項第3号に掲げる事項

- ロ 申込みの際現に飼養している家畜の頭数
 - ハ 申込みの際現に飼養している家畜で当該申込みに係るもののうちに疾病にかかり、若しくは傷害を受けているものがあること又は疾病若しくは傷害の原因が生じているものがあること。
- (6) 家畜共済に係る共済責任の開始する前に生じていた疾病若しくは傷害又はその原因が生じていた疾病若しくは傷害によって損害が生じたとき。
 - (7) 組合員又は組合員と同一の世帯に属する親族が故意又は重大な過失によって損害を生じさせたとき。ただし、組合員が損害賠償の責任を負うことによって生じることのある損失を填補するために、他人の所有するものを共済に付したときは、「故意又は重大な過失」とあるのは、「故意」とする。
 - (8) 家畜に係る共済責任の始まった日から2週間以内に当該家畜に共済事故が生じたとき。
 - (9) 組合員が、あらかじめこの組合の承諾を得ずに廃用に係る家畜をと殺し、又は譲り渡したとき。
 - (10) 組合員が競馬法（昭和23年法律第158号）による競馬の競走に共済目的である馬を出走させたことにより損害を生じさせたとき。

（待期間からの除外等）

第60条 前条第8号の規定にかかわらず、次の各号に掲げる場合において、この組合は、共済金の支払の責任を免れないものとする。

- (1) 当該共済事故の原因が当該共済責任の始まった時以降に生じたものである場合
- (2) 当該共済事故に係る家畜が、包括共済関係に付されたものであって、当該包括共済関係の成立により消滅した個別共済関係に、当該共済事故が生じた日の前日から起算して2週間以上前から付されていたものである場合
- (3) 当該共済事故に係る家畜が、当該共済事故が生じた日の前日から起算して2週間以上前から当該組合員の他の包括共済関係に付されていたものであって、当該他の包括共済関係に係る包括共済家畜区分に属する家畜でなくなったことにより、当該共済事故に係る包括共済関係に付されたものである場合
- (4) 当該共済事故に係る家畜が、当該共済事故が生じた日の前日から起算して2週間以上前から包括共済関係に係る家畜共済に付されていたものであって、種雄牛又は種雄馬となった後2週間以内に当該共済事故に係る個別共済関係に付されたものである場合
- (5) 当該共済事故に係る家畜が、その母牛に対する授精若しくは受精卵移植の日から起算して240日以上に達したこと又は出生により共済関係に付された子牛等（子牛にあつては、組合員が出生後引き続き飼養しているものに限る。）である場合であつて、当該子牛等の母牛が、当該共済事故が生じた日の前日から起算して2週間以上前から、当該組合員の共済関係に付されていたものであるとき（当該母牛が当該組合員の共済関係に付される2週間以上前から他の組合員等（他の組合等の組合員等を含む。）の共済関係に付されていた場合であつて、当該他の組合員等の飼養する家畜でなくなった後1週間以内に当該組合員の共済関係に付されたものであるときを含む。）。
- (6) 当該共済事故に係る家畜が、特定肉豚であつて、当該組合員の飼養する母豚から出生し、当該特定肉豚に係る包括共済関係の成立後に出生後第20日の日（その日に離乳していないときは、離乳した日）に達したものである場合
- (7) 当該共済事故に係る家畜が、特定肉豚であつて、法第141条第1項の規定により消滅した群単位肉豚に係る包括共済関係に、当該共済事故が生じた日の前日から起算して2週間以上前から付されていたものである場合
- (8) 当該共済事故に係る家畜が、当該共済事故が生じた日の前日から起算して2週間以上前から特定肉豚

に係る包括共済関係に付されていた肉豚であつて、当該包括共済関係の消滅後 2 週間以内に群単位肉豚に係る包括共済関係に付されたものである場合

- (9) 当該共済事故に係る家畜が、当該共済事故に係る共済関係に付される 2 週間以上前から他の組合員等（他の組合等の組合員等を含む。）に係る共済関係に付されていたものであつて、当該他の組合員等の飼養する家畜でなくなった後 1 週間以内に、当該共済事故に係る共済関係に付されたものである場合
- ② 前条第 9 号の規定にかかわらず、次の各号に掲げる場合において、この組合は、共済金の支払の責任を免れないものとする。
- (1) 当該廃用に係る家畜を緊急にと殺し、又は譲り渡す必要があつたこと。
- (2) 当該廃用に係る家畜が牛白血病又は伝達性海綿状脳症にかかっていることを知らずにと殺し、又は譲り渡したことにつき、重大な過失がないこと。

（共済関係の無効）

第 61 条 第 49 条第 3 項の規定による申込みの承諾の際、包括共済家畜区分に属する家畜で同項各号に掲げる事由がないものに係る個別共済関係は、無効とする。

- ② 第 49 条第 2 項又は第 3 項の規定に違反する個別共済関係は、無効とする。

（告知義務違反による解除）

第 62 条 組合員は、家畜共済の申込みの際、家畜共済の共済関係が成立することにより填補することとされる損害の発生の可能性に関する重要な事項のうちこの組合が告知を求めたものについて、事実の告知をしなければならない。

- ② この組合は、組合員が、前項に基づきこの組合が告知を求めたものについて、故意若しくは重大な過失により事実の告知をせず、又は不実の告知をしたときは、当該家畜共済の共済関係を解除することができる。
- ③ この組合は、前項の規定にかかわらず、次に掲げる場合には、共済関係を解除することができない。
- (1) 家畜共済の申込みの承諾の当時において、この組合が前項の事実を知り、又は過失によって知らなかったとき。
- (2) 共済媒介者が、組合員が第 1 項の事実の告知をすることを妨げたとき。
- (3) 共済媒介者が、組合員に対し、第 1 項の事実の告知をせず、又は不実の告知をすることを勧めたとき。
- ④ 前項第 2 号及び第 3 号の規定は、当該各号に規定する共済媒介者の行為がなかったとしても組合員が第 1 項の事実の告知をせず、又は不実の告知をしたと認められる場合には、適用しない。
- ⑤ 第 2 項の規定による解除権は、この組合が同項の規定による解除の原因があることを知った時から 1 か月間行使しないときは、消滅する。家畜共済の申込みの承諾の時から 6 か月を経過したときも、同様とする。

（重大事由による解除）

第 63 条 この組合は、次に掲げる事由がある場合には、家畜共済の共済関係を解除するものとする。

- (1) 組合員が、この組合に当該共済関係に基づく共済金の給付を行わせることを目的として損害を生じさせ、又は生じさせようとしたこと。
- (2) 組合員が、当該共済関係に基づく共済金の給付の請求について詐欺を行い、又は行おうとしたこと。
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、この組合の組合員に対する信頼を損ない、当該共済関係の存続を困難と

する重大な事由

- ② この組合は、第51条第2号に掲げる事由が生じた場合には、家畜共済の共済関係を解除するものとする。

(解除の効力)

第64条 家畜共済の共済関係の解除は、将来に向かってのみその効力を生ずる。

- ② この組合は、次の各号に掲げる規定により共済関係の解除をした場合には、当該各号に定める損害を填補する責任を負わない。
- (1) 第62条第2項 解除がされた時までに発生した共済事故による損害。ただし、同項の事実に基づかずに発生した共済事故による損害については、この限りでない。
- (2) 前条 同条各号に掲げる事由が生じたときから解除がされた時までに発生した共済事故による損害

(共済関係の失効)

第65条 個別共済関係に付された家畜について譲渡又は相続その他の包括承継があったときは、第11条第1項(同条第7項において準用する場合を含む。)の規定により当該個別共済関係に関し権利義務が承継された場合を除き、当該個別共済関係は、その譲渡又は相続その他の包括承継があった時からその効力を失う。

- ② 第55条第2項に規定する場合であつて、第69条第1項若しくは第78条第1項の規定に違反したとき又は第70条第3項若しくは第4項若しくは第79条第3項若しくは第4項の第1回目の組合員負担共済掛金の払込期限までに当該共済掛金が払い込まれなかったときは、当該共済関係は、その成立の時からその効力を失う。
- ③ 第69条第4項又は第78条第4項の猶予期間を経過したときは、当該家畜共済の共済関係は、当該猶予期間の初日からその効力を失う。
- ④ 第69条第5項又は第78条第5項に違反したときは、第11条第1項(同条第7項において準用する場合を含む。)の規定により承継した権利義務は、その承継の時からその効力を失う。
- ⑤ 個別共済関係の共済目的である家畜(乳牛の雌を除く。)が共済目的の種類を変更したときは、当該個別共済関係は、その変更の時からその効力を失う。

(他人の家畜を家畜共済に付した場合)

第66条 他人の家畜を飼養する者が、損害賠償の責任を負うことによって生ずることのある損害を填補するため当該家畜を家畜共済に付したときは、共済事故に係る損害賠償請求権を有する当該家畜の所有者は、共済金を請求する権利について先取特権を有する。

- ② 組合員は、前項の損害賠償請求権に係る債務について弁済をした金額又は当該家畜の所有者の承諾があった金額の限度においてのみ、この組合に対して共済金を請求する権利を行使することができる。

(家畜共済掛金率等一覧表の備置き及び閲覧)

第67条 理事は、家畜共済の共済掛金率、共済金額、組合員負担共済掛金等を記載した家畜共済掛金率等一覧表を作成し、これを事務所に備えて置かなければならない。ただし、当該一覧表の内容を、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録及び保存をすれば、その作成と備置きを行わないものとすることができる。

- ② 理事は、前項に掲げる事項が改定されたときは、当該事項を公告しなければならない。
- ③ 組合員は、いつでも、第1項の家畜共済掛金率等一覧表の閲覧を求めることができる。

第2節 死亡廃用共済

(組合員負担共済掛金の金額及びその徴収方法)

第68条 死亡廃用共済に係る組合員負担共済掛金の金額は、第75条の規定により算定した組合員が支払うべき共済掛金から、当該共済掛金の2分の1（豚に係るものにあつては、5分の2）に相当する金額（その金額が法第12条の農林水産大臣の定める金額を超える場合にあつては、その農林水産大臣の定める金額（組合員負担共済掛金の一部に充てるための補助金がある場合にあつては、当該金額及び当該補助金の金額）を差し引いて得た金額とする。

② 組合員負担共済掛金の払込みの告知は、払い込むべき金額、払込期日及び払込場所を記載した書面をもってするものとする。

(組合員負担共済掛金の払込期限)

第69条 死亡廃用共済の申込みをした者は、第50条第2項の承諾の通知が到達した日の翌日から起算して1週間以内（第55条第2項に規定する場合にあつては、同項の特定の日から2週間以内）に、最初の共済掛金期間に対する組合員負担共済掛金をこの組合に払い込まなければならない。

② 前項に規定する払込期限を過ぎて組合員負担共済掛金の払込みを受けたときは、この組合は、あらためて死亡廃用共済の申込みがあつたものとみなして取り扱うものとする。

③ 組合員は、共済掛金期間の満了の日までに、次の共済掛金期間に対する組合員負担共済掛金をこの組合に払い込まなければならない。

④ 前項の場合において、共済掛金期間の満了の日の翌日から起算して2週間をもって猶予期間とする。

⑤ この組合が第11条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の承諾をした場合において、譲受人に適用される共済掛金率が譲渡人に適用される共済掛金率を超えるときは、譲受人は、当該承諾の日（その日が共済目的の譲受けの前であつた場合は、当該譲受けの日）の翌日から起算して2週間以内に当該共済掛金期間のうちまだ経過していない期間に対し月割によって計算される組合員負担共済掛金の差額をこの組合に払い込まなければならない。

(組合員負担共済掛金の分納)

第70条 この組合は、死亡廃用共済の包括共済関係に係る組合員負担共済掛金について、次の各号に掲げる場合には、前条第1項又は第3項の規定にかかわらず、当該組合員の申請に基づき当該組合員負担共済掛金（同条第5項又は次条第2項の規定により払い込むべき差額部分を除く。）を当該各号に掲げる回数に分割して払い込むことを認めることができる。

(1) 共済掛金期間が1年（第57条第2項の規定により共済掛金期間を1年未満とする場合で、当該共済掛金期間の月数が12か月のものを含む。以下この章において同じ。）である包括共済関係について、共済掛金期間ごとの組合員負担共済掛金の金額が10万円以上である場合 3回

(2) この組合が第57条第2項の規定により共済掛金期間を1年未満とする包括共済関係であつて、当該共済掛金期間が6か月以上12か月未満のものについて、当該包括共済関係に係る組合員負担共済掛金の金額が10万円以上である場合 2回

② 前項の申請は、次項の規定による第2回目以降の払込みにつき担保を供し、又は保証人を立て、かつ、この組合の定める書類を添付してしなければならない。

③ 第1項第1号の規定により組合員負担共済掛金を3回に分割して払い込むことを認められた場合には、

組合員負担共済掛金の3分の1に相当する金額を、第50条第2項の承諾の通知が到達した日の翌日から起算して1週間以内（第55条第2項に規定する場合にあっては、同項の特定の日から2週間以内。次項において同じ。）及び第1回目の組合員負担共済掛金の払込期限の日の翌日から起算して当該共済掛金期間の月数を3回で除して得た月数を経過するごとの日までに、それぞれこの組合に払い込まなければならない。

- ④ 第1項第2号の規定により組合員負担共済掛金を分割して払い込むことを認められた場合には、第50条第2項の承諾の通知が到達した日の翌日から起算して1週間以内に組合員負担共済掛金の2分の1に相当する金額を、第1回目の組合員負担共済掛金の払込期限の日から起算して当該共済掛金期間の2分の1に相当する月数を経過した日までにその残額に相当する金額を、それぞれこの組合に払い込まなければならない。
- ⑤ 前2項に規定する第2回目以降の払込期限後2週間をもって猶予期間とする。

（死亡廃用共済の共済金額）

第71条 死亡廃用共済の共済金額は、共済掛金期間ごとに、共済価額の20%から80%（肉豚にあっては、40%から80%）までの範囲内において、組合員が申し出た金額とする。

- ② 次条第1項ただし書の規定により共済価額を算定することとなる場合は、共済掛金期間の期末において、前項の共済金額に、農林水産大臣が定めるところにより一定の調整を加え、再度算定した金額を共済金額とする。この場合において、これらの共済金額の差額から生じる組合員負担共済掛金の増額があるときは、組合員は、この組合が当該共済金額の算定後において通知する期限までに、当該増額分をこの組合に払い込まなければならないものとし、当該減額があるときは、この組合は、遅滞なく、当該減額分を組合員に返還するものとする。

（死亡廃用共済の共済価額）

第72条 肉豚以外の死亡廃用共済の包括共済関係についての共済価額は、共済掛金期間ごとに、規則第107条第1項の農林水産大臣が定める準則に従い、当該共済掛金期間中に飼養すると見込まれる当該包括共済関係に係る包括共済家畜区分（死廃）に属する家畜の価額の合計金額として、当該共済掛金期間の開始前に算定された金額とする。ただし、共済掛金期間中に飼養した当該包括共済関係に係る包括共済家畜区分（死廃）に属する家畜の価額の合計金額が当該算定された金額と異なる場合は、当該合計金額とする。

- ② 前項の家畜の価額は、次の表の左欄に掲げる家畜の区分に応じ、同表の右欄に定める金額とする。

| | |
|------------------------------|---|
| 搾乳牛、繁殖用雌牛、繁殖用雌馬、種豚 | 共済掛金期間の開始の時（その時後に飼養することとなる家畜にあっては、その飼養することとなる時）における家畜価額 |
| 育成乳牛、育成・肥育牛、育成・肥育馬（牛の胎児を除く。） | 共済掛金期間の終了の時における家畜の価額（その時前に飼養しないこととなる家畜にあっては、規則第107条第2項第2号の規定により農林水産大臣の定める金額） |
| 牛の胎児 | 規則第107条第2項第2号の規定により一定期間における牛の価格を基礎として農林水産大臣が定めるところにより算定される牛の出生の日における価額に相当する金額 |

〔事業規程〕

- ③ 肉豚に係る死亡廃用共済の包括共済関係についての共済価額は、次の表の左欄に掲げる肉豚の区分に応じ、同表の右欄に定める金額とする。

| | |
|-------|---|
| 特定肉豚 | 基準期間ごとに、当該基準期間の開始の時に於いて組合員が現に飼養している肉豚の価額の合計金額 |
| 群単位肉豚 | 飼養区分ごとに、共済掛金期間の開始の時に於ける当該飼養区分に属する肉豚の価額の合計金額 |

- ④ 死亡廃用共済の個別共済関係についての共済価額は、当該個別共済関係に係る家畜の共済掛金期間の開始の時に於ける価額とする。

(肉豚以外の死亡廃用共済の共済価額及び共済金額の変更)

第73条 肉豚以外の死亡廃用共済の共済価額について、第16条第1項第2号に掲げる異動が生じたことにより死亡廃用共済の包括共済関係に係る家畜の価額の合計金額に変更が生じたときは、この組合は、同条第1項本文の規定による通知を受けた後、遅滞なく、当該包括共済関係の共済価額を変更するものとする。

- ② 前項の規定により共済価額が変更された場合には、第1号に掲げる金額を共済金額とする。ただし、共済価額が増加した場合であつて、組合員が前項の異動の日から2週間以内に同号に掲げる金額から第2号に掲げる金額までの範囲内の金額を申し出たときは、当該金額を共済金額とする。
- (1) 変更後の共済価額に、変更前の第76条第1項の付保割合を乗じて得た金額
- (2) 変更前の共済金額と、変更後の共済価額の100分の20に相当する金額のいずれか高い金額
- ③ 組合員は、前項の規定により共済金額が増額される場合は、まだ経過していない共済掛金期間に対する共済掛金（分割支払がされる場合にあつては、その第1回の支払に係るもの）を、第1項の異動の日から1か月以内に支払わなければならない。
- ④ この組合は、第2項の規定により共済金額が減額される場合は、減額する共済金額に対する共済掛金のうち、まだ経過していない共済掛金期間に対するものを組合員に返還するものとする。
- ⑤ 第1項の規定による共済価額の変更及び第2項の規定による共済金額の変更は、当該変更に係る第1項の異動の日からその効力を生ずる。

(特定肉豚に係る死亡廃用共済の共済金額の変更)

第74条 特定肉豚に係る死亡廃用共済の共済金額は、共済事故が生じたときは、当該共済事故が生じた時の属する基準期間の次の基準期間の開始の時に、支払われた共済金に相当する金額だけ減額するものとする。

- ② 特定肉豚に係る死亡廃用共済の共済価額が第16条第1項第3号イ又はロに掲げる共済目的の異動により増加したときは、組合員は当該異動の日の属する基準期間の次の基準期間の開始の日から2週間以内に、共済価額の増加の割合の範囲内で、共済金額の増額を請求することができる。この場合には、組合員は当該請求をした日から2週間以内に、まだ経過していない共済掛金期間に対する共済掛金（分割支払がされる場合にあつては、その第1回の支払に係るもの）を支払わなければならないものとし、当該共済金額の増額は、この組合が組合員から当該共済掛金の支払（分割支払がされる場合にあつては、その第1回の支払）を受けた日の翌日からその効力を生ずるものとする。
- ③ 特定肉豚に係る死亡廃用共済の共済価額が共済事故又は第16条第1項第3号ハに掲げる共済目的の異動により著しく減少したときは、組合員は、当該共済事故又は当該異動が生じた日の属する基準期間の次の基準期間の開始の日から2週間以内に、共済価額の減少の割合の範囲内で、共済金額の減額を請求することができる。この場合において、この組合は、まだ経過していない共済掛金期間に対する共済掛金を返還するものとし、当該共済金額の減額は、この組合が組合員の請求を受理した日の翌日からその効力を生ずるものとする。

るものとする。

(共済掛金)

第 75 条 死亡廃用共済の共済掛金は、共済目的の種類ごとに、次の式によって算定される金額とする。

$$\text{共済掛金} = \text{共済金額} \times \text{共済掛金率} \times \text{短期係数 (共済掛金期間 (月数) / 12 (群単位肉豚にあつては 1))}$$

(注) 共済掛金期間 (月数) の 1 月未満の端数があるときは、これを 1 月とする。

- ② 共済掛金率は、この組合が総会又は総代会の議決を経て定めた共済掛金率のうち、当該組合員の危険段階区分に係るものを適用する。

(死亡廃用共済の共済金の支払額)

第 76 条 死亡廃用共済に係る共済金は、次の式によって算定される金額とする。ただし、死亡廃用共済の包括共済関係に係るものにあつては包括共済家畜区分 (死廃) ごと、組合員ごと及び共済掛金期間ごとに、死亡廃用共済の個別共済関係に係るものにあつては家畜ごと及び共済掛金期間ごとに、法第 145 条第 1 項ただし書の農林水産大臣が定める金額を限度とする。

$$\text{共済金} = \text{損害の額} \times \text{付保割合}$$

損害の額
= 共済事故に係る家畜の価額 - (肉皮等残存物の評価額又は当該家畜の廃用時の評価額 + 補償金等)

付保割合 = 共済金額 / 共済価額

(注) 補償金等には、家畜伝染病予防法第 58 条第 1 項の規定により受けるべき手当金 (以下この条において「手当金」という。) を含まない。

- ② 手当金を受取るべき場合又は肉皮等残存物の評価額若しくは当該家畜の廃用時の評価額が共済事故に係る家畜の価額の 2 分の 1 を超える場合において、前項の式により算出した共済金が次の式により算出した金額を超えるときは、前項本文の規定にかかわらず、次の式により算出した金額を前項本文の死亡廃用共済に係る共済金とする。

$$\text{共済金} = \text{共済事故に係る家畜の価額} - (\text{肉皮等残存物の評価額} + \text{当該家畜の廃用時の評価額} + \text{補償金等} + \text{手当金})$$

- ③ 死亡廃用共済の包括共済関係についての第 1 項の家畜の価額は、次の各号に掲げる包括共済家畜区分 (死廃) に応じ、当該各号に定める金額とする。
- (1) 搾乳牛、繁殖用雌牛、繁殖用雌馬及び種豚 共済掛金期間の開始の時 (その時後に当該包括共済関係に付された家畜にあつては、その付された時) における当該家畜の価額
 - (2) 育成乳牛、育成・肥育牛及び育成・肥育馬 共済事故が発生した時における当該家畜の価額 (牛の胎児にあつては、規則第 107 条第 2 項第 2 号に定める金額)
 - (3) 肉豚 規則第 107 条第 4 項の農林水産大臣が定めるところにより算定される金額
- ④ 死亡廃用共済の個別共済関係についての第 1 項の家畜の価額は、共済掛金期間の開始の時における当該家畜の価額とする。
- ⑤ 第 1 項及び第 2 項の肉皮等残存物及び家畜の廃用時の評価額は、当該肉皮等残存物又は当該廃用に係る家畜を通常利用すべき方法により利用するとした場合における価額 (これらの価額が当該家畜の価額の 2 分の 1 を超えるときは、当該価額の 2 分の 1) とする。
- ⑥ 第 1 項及び第 2 項の補償金等及び手当金は、組合員の悪意又は重大な過失によりその全部又は一部を受取るができなくなった場合においても、その全部を受取るべきものとして計算する。

第3節 疾病傷害共済

(組合員負担共済掛金の金額及びその徴収方法)

第77条 疾病傷害共済に係る組合員負担共済掛金の金額は、第83条の規定により算定した組合員が支払うべき共済掛金から、当該共済掛金の2分の1（豚に係るものにあつては、5分の2）に相当する金額（その金額が法第12条の農林水産大臣の定める金額を超える場合にあつては、その農林水産大臣の定める金額（組合員負担共済掛金の一部に充てるための補助金がある場合にあつては、当該金額及び当該補助金の金額）を差し引いて得た金額とする。

② 組合員負担共済掛金の払込みの告知は、払い込むべき金額、払込期日及び払込場所を記載した書面をもってするものとする。

(組合員負担共済掛金の払込期限)

第78条 疾病傷害共済の申込みをした者は、第50条第2項の承諾の通知が到達した日の翌日から起算して1週間以内（第55条第2項に規定する場合にあつては、同項の特定の日から2週間以内）に、最初の共済掛金期間に対する組合員負担共済掛金をこの組合に払い込まなければならない。

② 前項に規定する払込期限を過ぎて組合員負担共済掛金の払込みを受けたときは、この組合は、あらためて疾病傷害共済の申込みがあつたものとみなして取り扱うものとする。

③ 組合員は、共済掛金期間の満了の日までに、次の共済掛金期間に対する組合員負担共済掛金をこの組合に払い込まなければならない。

④ 前項の場合において、共済掛金期間の満了の日の翌日から起算して2週間をもって猶予期間とする。

⑤ この組合が第11条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の承諾をした場合において、譲受人に適用される共済掛金率が譲渡人に適用される共済掛金率を超えるときは、譲受人は、当該承諾の日（その日が共済目的の譲受けの前であつた場合は、当該譲受けの日）の翌日から起算して2週間以内に当該共済掛金期間のうちまだ経過していない期間に対し月割によって計算される組合員負担共済掛金の差額をこの組合に払い込まなければならない。

(組合員負担共済掛金の分納)

第79条 この組合は、疾病傷害共済の包括共済関係に係る組合員負担共済掛金について、次の各号に掲げる場合には、前条第1項又は第3項の規定にかかわらず、当該組合員の申請に基づき当該組合員負担共済掛金（同条第5項により払い込むべき差額部分を除く。）を当該各号に掲げる回数に分割して払い込むことを認めることができる。

(1) 共済掛金期間が1年（第57条第2項の規定により共済掛金期間を1年未満とする場合で、当該共済掛金期間の月数が12か月のものを含む。）である包括共済関係について、共済掛金期間ごとの組合員負担共済掛金の金額が10万円以上である場合 3回

(2) この組合が第57条第2項の規定により共済掛金期間を1年未満とする包括共済関係であつて、当該共済掛金期間が6か月以上12か月未満のものについて、当該包括共済関係に係る組合員負担共済掛金の金額が10万円以上である場合 2回

② 前項の申請は、次項の規定による第2回目以降の払込みにつき担保を供し、又は保証人を立て、かつ、この組合の定める書類を添付してしなければならない。

③ 第1項第1号の規定により組合員負担共済掛金を3回に分割して払い込むことを認められた場合には、

組合員負担共済掛金の3分の1に相当する金額を、第50条第2項の承諾の通知が到達した日の翌日から起算して1週間以内（第55条第2項に規定する場合にあっては、同項の特定の日から2週間以内。次項において同じ。）及び第1回目の組合員負担共済掛金の払込期限の日の翌日から起算して当該共済掛金期間の月数を3回で除して得た月数を経過するごとの日までに、それぞれこの組合に払い込まなければならない。

- ④ 第1項第2号の規定により組合員負担共済掛金を分割して払い込むことを認められた場合には、第50条第2項の承諾の通知が到達した日の翌日から起算して1週間以内に組合員負担共済掛金の2分の1に相当する金額を、第1回目の組合員負担共済掛金の払込期限の日から起算して当該共済掛金期間の2分の1に相当する月数を経過した日までにその残額に相当する金額を、それぞれこの組合に払い込まなければならない。
- ⑤ 前2項に規定する第2回目以降の払込期限後2週間をもって猶予期間とする。

（疾病傷害共済の共済金額）

第80条 疾病傷害共済の共済金額は、共済掛金期間ごとに、支払限度額を超えない範囲内において、共済掛金期間の開始の時までに組合員が申し出た金額とする。

（疾病傷害共済の支払限度額）

第81条 疾病傷害共済の支払限度額は、包括共済関係にあっては共済掛金期間の開始の時ににおいて組合員が現に飼養している当該包括共済関係に係る包括共済家畜区分（病傷）に属する家畜のその時における価額の合計額、個別共済関係にあっては共済目的たる家畜の共済掛金期間の開始の時ににおける価額（これらの金額が規則第109条の農林水産大臣が定める金額を超える場合にあっては、当該金額）に、同条の支払限度率を乗じて得た金額（1年に満たない共済掛金期間にあっては、当該金額に規則第3条第3項第2号の農林水産大臣が定める係数を乗じて得た金額）とする。

（疾病傷害共済の支払限度額及び共済金額の変更）

第82条 組合員は、次に掲げる異動が生じた場合において、当該異動の日から2週間以内に、支払限度額又は共済金額につき、それぞれ増額又は減額の申出をすることができる。

- (1) 共済目的たる家畜を飼養することとなったこと。
 - (2) 養畜の業務の規模の著しい変更に伴い共済目的たる家畜を飼養しないこととなったこと。
- ② この組合は、前項第1号に掲げる異動に係る同項の申出があったときは、支払限度額にあっては第1号、共済金額にあっては第2号に掲げる金額を増額するものとする。
- (1) 当該異動に係る家畜の当該異動の時ににおける価額の合計額（その金額が規則第112条第2項第1号の農林水産大臣が定める金額を超える場合にあっては、当該金額）に規則第109条の支払限度率を乗じて得た金額
 - (2) 前号に掲げる金額に、変更前の共済金額の支払限度額に対する割合及びまだ経過していない共済掛金期間の割合を乗じて得た金額を超えない範囲内で組合員が申し出た金額
- ③ 組合員は、前項の規定により増額する共済金額に対する共済掛金（分割支払がされる場合にあっては、その第1回の支払に係るもの）を第1項の申出の日から2週間以内に支払しなければならないものとし、当該共済金額の増額は、当該共済掛金が期限までに支払われたときに当該異動の日からその効力を生ずるものとする。
- ④ この組合は、第1項第2号に掲げる異動に係る同項の申出があったときは、支払限度額及び共済金額につき、変更後の共済金額がその時までに支払われた共済金（その時までに第16条第4項の規定により通知

がされた損害に係る共済金であつて、その時後に支払われるものを含む。)の総額を下回らない範囲において、支払限度額にあつては第2項第1号、共済金額にあつては同項第2号に掲げる金額を減額するものとする。

- ⑤ 前項の場合において、この組合は、前項の減額に係る共済掛金を組合員に返還するものとし、当該共済金額の減額は、当該異動の日から効力を生ずるものとする。

(共済掛金)

第83条 疾病傷害共済の共済掛金は、共済目的の種類ごとに、次の式によって算定される金額とする。

$$\text{共済掛金} = \text{共済金額} \times \text{共済掛金率}$$

- ② 共済掛金率は、この組合が総会又は総代会の議決を経て定めた共済掛金率のうち、当該組合員の危険段階区分に係るものを適用する。

(疾病傷害共済の共済金の支払額)

第84条 疾病傷害共済に係る共済金は、次の式によって算定される金額とする。ただし、疾病傷害共済の包括共済関係に係るものにあつては包括共済家畜区分(病傷)ごと、組合員ごと及び共済掛金期間ごとに、疾病傷害共済の個別共済関係に係るものにあつては家畜ごと及び共済掛金期間ごとに、法第145条第2項後段において準用する同条第1項ただし書の農林水産大臣が定める金額を限度とする。

$$\begin{aligned} & \text{共済金} \\ & = \text{組合員が負担すべき費用の内容に応じて規則第117条第1項の農林水産大臣の定める点数によって} \\ & \quad \text{共済事故ごとに計算される総点数} \times \text{同項の農林水産大臣が定める1点の価額} \times 90/100 \end{aligned}$$

- ② 前項の共済金の額は、当該診療その他の行為によって組合員が負担した費用の100分の90に相当する金額を限度とする。

(共済金の支払とみなされる場合)

第85条 疾病傷害共済に付した家畜につき共済事故が発生した場合において、この組合が診療その他の行為をし、又はその費用を負担したときは、この組合は、当該診療その他の行為に要した費用の額の限度において共済金を支払ったものとみなす。

第4章 畑作物共済

(定 義)

第86条 この章において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによるものとする。

- (1) 類区分 法第153条第1項に規定する共済目的の種類をいう。
- (2) 全相殺方式による畑作物共済 法第153条第1項第1号に掲げる金額を共済金額とする共済関係であつて、規則第140条第1項第1号の全相殺方式を選択するものをいう。
- (3) 半相殺方式による畑作物共済 法第153条第1項第1号に掲げる金額を共済金額とする共済関係であつて、規則第140条第1項第2号の半相殺方式を選択するものをいう。
- (4) 地域インデックス方式による畑作物共済 法第153条第1項第1号に掲げる金額を共済金額とする共済関係であつて、規則第140条第1項第3号の地域インデックス方式を選択するものをいう。
- (5) 畑作物共済資格団体 法第20条第1項第4号に規定する者のみが構成員となっている農業共済資格団体をいう。

- (6) 全相殺方式資格者 類区分ごとに、その者が栽培する農作物に係る収穫物のおおむね全量を原則として過去5年間に於いて法第133条第1項の規定による資料の提供につき協力が得られる者に出荷しており、かつ、今後も当該収穫物のおおむね全量を当該資料の提供につき協力が得られる者に出荷することが確実であると見込まれる者（畑作物共済資格団体を含む。）又は農作物に係る収穫量がその者の青色申告書及びその関係書類により適正に確認できる者
- (7) 補償割合 第95条第3項の割合をいう。
- (8) 統計単位地域 規則第96条第1項の統計単位地域をいう。

（共済関係の成立）

第87条 畑作物共済の共済関係は、一括加入区分（法第152条第2項の区分をいう。以下この章において同じ。）ごと及び農作物の年産ごとに、組合員が栽培を行う畑作物共済の共済目的たる農作物（次に掲げる事由に該当する農作物を除く。）の全てを畑作物共済に付することを申し込み、この組合がこれを承諾することによって、成立するものとする。

- (1) 類区分ごとの栽培面積が30アールに達しない農作物であること。
- (2) 共済事故の発生が相当の確実さをもって見通されること。
- (3) 当該農作物に係る第95条第2項の基準収穫量の適正な決定が困難であること。
- (4) 当該農作物に係る損害の額の適正かつ円滑な認定が困難であること。
- (5) 当該農作物（大豆を除く。）に係る収穫物が未成熟のまま収穫されることその他当該農作物につき通常の肥培管理が行われず、若しくは行われぬおそれがあること。
- (6) 当該農作物（そば、スイートコーン、たまねぎ又はかぼちゃを除く。）の作付けが次に掲げる作付基準に適合しないこと。
 - イ 連作をしていないこと。ただし、緑肥作物の作付け、有機質肥料の施肥等により連作による弊害が認められない場合には、この限りでない。
 - ロ 当該者に係る畑作物の栽培耕地の属する地域として、この組合が別に定める地域内における畑作物の望ましい作付体系としていること。

② 前項の規定による申込みは、4月10日から4月30日までの期間に行うものとする。ただし、当該期間における申込みが困難である場合等にあつては、当該期間の開始前に申込みを行うことができるものとする。

- (1) 第1区分 ばれいしょ、大豆、小豆、いんげん又はてん菜
- (2) 第2区分 スイートコーン
- (3) 第3区分 たまねぎ
- (4) 第4区分 かぼちゃ
- (5) 第5区分 そば

（畑作物共済の申込み）

第88条 組合員が畑作物共済の申込み（前条第1項の規定による申込みをいう。以下同じ。）をしようとするときは、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に掲げる事項を記載した申込書をこの組合に提出するものとする。

- (1) 組合員の氏名及び住所（法人たる組合員にあつてはその名称、その代表者の氏名及びその事務所の所在地、畑作物共済資格団体たる組合員にあつてはその名称並びにその代表者の氏名及び住所。）

- (2) 共済目的の種類、引受方式、補償割合及び単位当たり共済金額
 - (3) 耕地の所在地及び面積並びに当該耕地において栽培される農作物の品種、栽培方法、用途及び収穫時期
 - (4) 前条第1項第6号の作付基準に適合していることを明らかにする事項
 - (5) 全相殺方式を選択する場合にあっては、収穫量の確認方法
 - (6) 自動継続特約を付するときはその旨
 - (7) その他共済目的を明らかにすべき事項
- ② この組合は、畑作物共済の申込みを受けたときは、当該畑作物共済に係る共済責任期間の開始前までに、当該申込みを承諾するかどうかを決定して、これを組合員に通知するものとする。
- ③ 第1項の申込書に記載した事項に変更（第16条第1項第5号に規定する共済目的の異動を除く。）が生じたときは、組合員は、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。

（申込みの承諾を拒む場合）

第89条 この組合は、組合員から畑作物共済の申込みがあった場合において、共済目的の種類ごと又は一括加入区分ごとに、当該申込みに係る農作物が、その者が栽培を行う畑作物共済の共済目的たる農作物（第87条第1項各号に該当するものを除く。）の全てでない場合は、当該申込みの承諾を拒むものとする。

（共済関係成立時の書面交付）

第90条 この組合は、畑作物共済の共済関係が成立したときは、遅滞なく、組合員に対し、次に掲げる事項を記載した書面を交付するものとする。

- (1) 組合の名称
 - (2) 組合員の氏名又は名称
 - (3) 共済事故
 - (4) 共済掛金期間の始期及び終期
 - (5) 共済金額
 - (6) 組合員の属する危険段階
 - (7) 類区分、引受方式、補償割合、単位当たり共済金額、引受面積及び自動継続特約の有無
 - (8) 共済目的を特定するために必要な事項
 - (9) 組合員負担共済掛金及び賦課金並びにその支払の方法
 - (10) 第16条第1項第5号、第3項及び第4項並びに第88条第3項の通知をすべき事項
 - (11) 共済関係の成立年月日
 - (12) 書面を作成した年月日
- ② 前項の書面には、組合長が署名し、又は記名押印しなければならない。

（共済責任期間）

第91条 畑作物共済の共済責任期間は、発芽期（移植をする場合にあっては、移植期）から収穫をするに至るまでの期間とする。

(引受方式の選択方法)

第92条 ばれいしょ、大豆、いんげん、てん菜、そば及びスイートコーンに係る畑作物共済の引受方式を選択するときは、次の表の第1欄に掲げる共済目的の種類につき、同表の第2欄に掲げる区分のうち地域インデックス方式以外の引受方式を選択するときは第1区分、地域インデックス方式を選択するときは第2区分に属する同表の第3欄に掲げる区分ごとに、それぞれ同表の第4欄に掲げる引受方式のいずれかを選択するものとする。この場合において、全相殺方式にあつては全相殺方式資格者に限り選択できるものとする。

| 第1欄 | 第2欄 | 第3欄 | | 第4欄 |
|---------|------|---------------|--|--------------|
| ばれいしょ | 第1区分 | 1類 | 春植えて、かつ、でん粉加工用であるばれいしょ | 全相殺方式 |
| | | 2類 | 春植えて、かつ、食品加工用であるばれいしょ | 全相殺方式 |
| | | 3類 | 春植えて、かつ、種子用であるばれいしょ | 全相殺方式 |
| | | 4類 | 春植えて、かつ、でん粉加工用、食品加工用及び種子用以外の用途であるばれいしょ | 全相殺方式 |
| | 第2区分 | 9類 | 春期に播種するばれいしょ | 地域インデックス方式 |
| 大豆 | 第1区分 | 1類 | 乾燥子実で収穫され、かつ、黒大豆以外の品種である大豆 | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | | 3類 | 乾燥子実で収穫され、かつ、丹波黒以外の黒大豆の品種である大豆 | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | | 4類 | 未成熟子実で収穫され、かつ、食品加工用である大豆 | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | | 5類 | 未成熟子実で収穫され、かつ、食品加工用以外の用途である大豆 | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | 第2区分 | 6類 | 乾燥子実で収穫され、かつ、田で耕作する大豆 | 地域インデックス方式 |
| | | 7類 | 乾燥子実で収穫され、かつ、畑で耕作する大豆 | 地域インデックス方式 |
| 8類 | | 未成熟子実で収穫される大豆 | 地域インデックス方式 | |
| いんげん | 第1区分 | 1類 | 手亡類の品種のいんげん | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | | 2類 | 金時類及びうずら類の品種のいんげん | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | | 3類 | 大福類及びとら豆類の品種のいんげん | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | | 4類 | べにばないんげんの品種のいんげん | 全相殺方式及び半相殺方式 |
| | 第2区分 | 5類 | | 地域インデックス方式 |
| てん菜 | 第1区分 | 1類 | | 全相殺方式 |
| | 第2区分 | 2類 | 田で耕作するてん菜 | 地域インデックス方式 |
| | | 3類 | 畑で耕作するてん菜 | 地域インデックス方式 |
| そば | 第1区分 | 1類 | 夏そば | 全相殺方式 |
| | 第2区分 | 3類 | 田で耕作するそば | 地域インデックス方式 |
| | | 4類 | 畑で耕作するそば | 地域インデックス方式 |
| スイートコーン | 第1区分 | 1類 | 食品加工用であるスイートコーン | 全相殺方式 |
| | | 2類 | 食品加工用以外の用途であるスイートコーン | 全相殺方式 |
| | 第2区分 | 3類 | | 地域インデックス方式 |

- ② 小豆、たまねぎ、かぼちゃ及びホップに係る畑作物共済の引受方式を選択するときは、次の表の左欄に掲げる共済目的の種類に応じ、同表の右欄に掲げる引受方式のいずれかを選択するものとする。この場合において、全相殺方式にあっては全相殺方式資格者に限り選択できるものとする。

| 共済目的の種類 | 引受方式 |
|-----------|-------------------------|
| 小豆 | 半相殺方式、全相殺方式及び地域インデックス方式 |
| たまねぎ、かぼちゃ | 全相殺方式及び地域インデックス方式 |
| ホップ | 全相殺方式 |

(組合員負担共済掛金の金額及びその徴収方法)

第93条 畑作物共済に係る組合員負担共済掛金の金額は、類区分ごとに、第96条の規定により算定した組合員が支払うべき共済掛金から、当該組合員に係る共済金額に、当該組合員に係る畑作物基準共済掛金率（法第154条第1項の基準共済掛金率をいう。以下同じ。）を乗じて得た金額の100分の55に相当する金額（組合員負担共済掛金の一部に充てるための補助金がある場合にあつては、当該金額及び当該補助金の金額）を差し引いて得た金額とする。

- ② 組合員負担共済掛金の払込みの告知は、払い込むべき金額、払込期日及び払込場所を記載した書面をもってするものとする。

(組合員負担共済掛金の払込期限)

第94条 第87条第1項の規定によりこの組合との間に畑作物共済の共済関係が成立した者は、畑作物共済に係る組合員負担共済掛金を7月20日までにこの組合に払い込まなければならない。

(共済金額)

第95条 畑作物共済の共済金額は、類区分ごとに、次の式によって算定する金額とする。

| | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 全相殺方式、半相殺方式及び地域インデックス方式 | 共済金額（組合員ごと） ＝基準収穫量×補償割合×単位当たり共済金額 |
|-------------------------|--------------------------------------|

- ② 基準収穫量は、組合員ごと及び類区分ごとに、規則第143条の準則に従い、この組合が定めるものとする。
- ③ 補償割合は、類区分ごとに、次の表の左欄に掲げる引受方式に応じて、同表の右欄に掲げる割合から組合員が選択するものとする。

| 引受方式 | 補償割合 |
|---------------------------------|-------------|
| 全相殺方式（ばれいしょ、大豆、てん菜）及び地域インデックス方式 | 90%、80%、70% |
| 全相殺方式（ばれいしょ、大豆、てん菜以外）、半相殺方式（大豆） | 80%、70%、60% |
| 半相殺方式（大豆以外） | 70%、60%、50% |

- ④ 単位当たり共済金額は、類区分ごとに、規則第144条第1項の規定により農林水産大臣が定めた2以上の金額から、組合員が申し出た金額とする。

(共済掛金)

第96条 畑作物共済の共済掛金は、類区分ごとに、次の式によって算定される金額とする。

| |
|---------------------|
| 共済掛金 = 共済金額 × 共済掛金率 |
|---------------------|

- ② 共済掛金率は、この組合が総会又は総代会の議決を経て定めた共済掛金率のうち、当該組合員の危険段階区分に係るものを適用する。

(自動継続特約の締結)

第 97 条 この組合は、畑作物共済の申込みの承諾の際、当該組合員からの申出により、翌年以降の年産について第 87 条第 2 項の申込期間が終了するまでに当該組合員から畑作物共済の申込みをしない旨の意思表示がないときにおいて当該畑作物共済の申込みがあったものとする旨の特約（以下「畑作物共済自動継続特約」という。）をすることができる。

② この組合は、畑作物共済自動継続特約を付した畑作物共済について、申込期間が終了するまでに、前年産の共済関係の内容を示すとともに、当該組合員からその内容の変更の申出がある場合は、これを変更するものとする。

(畑作物共済掛金率等一覧表の備置き及び閲覧)

第 98 条 理事は、畑作物共済の共済掛金率、共済掛金率のうち組合員が負担する部分の率、単位当たり共済金額等を記載した畑作物共済掛金率等一覧表を作成し、これを事務所に備えて置かなければならない。ただし、当該一覧表の内容を、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録及び保存をすれば、その作成と備置きを行わないものとするができる。

② 理事は、共済目的の種類ごとに、毎年、第 87 条第 2 項の申込期間が開始する日の 10 日前までに、前項に掲げる事項を公告しなければならない。

③ 組合員は、いつでも、第 1 項の畑作物共済掛金率等一覧表の閲覧を求めることができる。

(共済金の支払額)

第 99 条 全相殺方式、半相殺方式又は地域インデックス方式による畑作物共済に係る共済金は、類区分ごとに、次の式によって算定される金額とする。

| | |
|------------|---|
| 全相殺方式 | $\begin{aligned} \text{共済金（組合員ごと）} &= \text{共済減収量} \times \text{単位当たり共済金額} \\ \text{共済減収量} &= \text{減収量} - \text{支払開始減収量} \\ \text{減収量} &= \text{組合員の基準収穫量} - \text{組合員の収穫量} \\ \text{支払開始減収量} &= \text{組合員の基準収穫量} \times (1 - \text{補償割合}) \end{aligned}$ |
| 半相殺方式 | $\begin{aligned} \text{共済金（組合員ごと）} &= \text{共済減収量} \times \text{単位当たり共済金額} \\ \text{共済減収量} &= \text{減収量} - \text{支払開始減収量} \\ \text{減収量} &= \text{耕地ごとの減収量の合計} \\ \text{耕地ごとの減収量} &= \text{耕地別基準収穫量} - \text{耕地の収穫量} \\ \text{支払開始減収量} &= \text{組合員の基準収穫量} \times (1 - \text{補償割合}) \end{aligned}$ |
| 地域インデックス方式 | $\begin{aligned} \text{共済金（組合員ごと及び統計単位地域ごと）} &= \text{共済減収量} \times \text{単位当たり共済金額} \\ \text{共済減収量} &= \text{減収量} - \text{支払開始減収量} \\ \text{減収量} &= (\text{基準統計単収} - \text{その年産の統計単収}) \times \text{耕作面積} \\ \text{支払開始減収量} &= \text{基準統計単収} \times \text{耕作面積} \times (1 - \text{補償割合}) \\ \text{基準統計単収} &= \text{過去一定年間における統計単収の平均} \end{aligned}$ <p>（注）共済事故の発生していない者については、共済減収量はないものとする。</p> |

② 収穫量は、全相殺方式又は半相殺方式にあつては規則第 82 条の準則に従い認定されたものとする。この場合において、てん菜にあつては、当該収穫量に組合員の農作物の糖度に応じて規則第 149 条第 1 項第 1 号の規定により農林水産大臣の定めるところにより一定の調整を加えて得た数量とする。

③ 減収量は、全相殺方式又は半相殺方式において、次に掲げる事由の存する耕地がある場合には、第 1 項の式により算定された数量に、実損害を勘案して農林水産大臣が定める一定の調整を加えてこの組合が算定するものとする。

- (1) 発芽期又は移植期において共済事故により発芽しなかったこと又は移植できなかったこと。
- (2) 播種又は移植をしたてん菜が風害、凍霜害若しくは獣害により発芽若しくは活着をしなかった場合又は発芽若しくは活着後に風害、凍霜害若しくは獣害により滅失した場合において再び播種又は移植をしたこと。

(共済金額の削減)

第 100 条 この組合は、畑作物共済の共済金の支払に不足を生ずる場合には、次に掲げる金額の合計金額をその支払に充ててもなお不足を生ずる場合に限り、共済金額を削減することができる。

- (1) 畑作物共済に係る定款第 54 条の不足金填補準備金の金額
- (2) 畑作物共済に係る定款第 56 条の特別積立金の金額

(共済金の支払の免責等)

第 101 条 次の場合には、この組合は、共済金の全部又は一部につき、支払の責任を免れるものとする。

- (1) 組合員が第 12 条第 1 項の規定による義務を怠ったとき。
 - (2) 組合員が第 13 条の規定による指示に従わなかったとき。
 - (3) 組合員が第 16 条第 1 項第 5 号、第 3 項又は第 4 項の規定による通知を怠り又は悪意若しくは重大な過失によって不実の通知をしたとき。
 - (4) 畑作物共済の申込みをした組合員が、当該申込みの際、当該申込みに係る農作物に関する次に掲げる事実又は事項につき、悪意又は重大な過失によってこれを通知せず又は不実の通知をしたとき（この組合がこれを知っていたとき及び過失によってこれを知らなかったときを除く。）。
 - イ 共済目的の種類
 - ロ 第 88 条第 1 項第 3 号及び第 4 号に掲げる事項
- ② この組合は、法第 153 条第 1 項の規定により栽培方法に応ずる区分が定められた共済目的の種類に係る農作物につき、組合員がその栽培方法を同項の規定により定められた区分で当該農作物に適用されるものに係る栽培方法以外のものに変更した場合には、その変更の結果、通常生ずべき損失の額については、当該組合員に対して共済金の支払の義務を有しない。
- ③ この組合は、組合員が植物防疫法の規定に違反した場合には、当該違反行為の結果通常生ずべき損失の額については、当該組合員に対して共済金の支払の義務を有しない。

(告知義務違反による解除)

第 102 条 組合員は、畑作物共済の申込みの当時、畑作物共済の共済関係が成立することにより填補することとされる損害の発生の可能性に関する重要な事項のうちこの組合が告知を求めたものについて、事実の告知をしなければならない。

- ② この組合は、組合員が、前項に基づきこの組合が告知を求めたものについて、故意若しくは重大な過失により事実の告知をせず、又は不実の告知をしたときは、当該畑作物共済の共済関係を解除することができる。
- ③ この組合は、前項の規定にかかわらず、次に掲げる場合には、共済関係を解除することができない。
 - (1) 畑作物共済の申込みの承諾の当時において、この組合が前項の事実を知り、又は過失によって知らなかったとき。
 - (2) 共済媒介者が、組合員が第 1 項の事実の告知をすることを妨げたとき。

- (3) 共済媒介者が、組合員に対し、第1項の事実の告知をせず、又は不実の告知をすることを勧めたとき。
- ④ 前項第2号及び第3号の規定は、当該各号に規定する共済媒介者の行為がなかったとしても組合員が第1項の事実の告知をせず、又は不実の告知をしたと認められる場合には、適用しない。
- ⑤ 第2項の規定による解除権は、この組合が同項の規定による解除の原因があることを知った時から1か月間行使しないときは、消滅する。畑作物共済の申込みの承諾の時から6か月を経過したときも、同様とする。

(共済掛金不払の場合の共済関係の解除)

第103条 組合員が正当な理由がないのに第94条の規定による払込みを遅滞したときは、この組合は、当該畑作物共済の共済関係を解除するものとする。

(重大事由による解除)

第104条 この組合は、次に掲げる事由がある場合には、畑作物共済の共済関係を解除するものとする。

- (1) 組合員が、この組合に当該共済関係に基づく共済金の給付を行わせることを目的として損害を生じさせ、又は生じさせようとしたこと。
- (2) 組合員が、当該共済関係に基づく共済金の給付の請求について詐欺を行い、又は行おうとしたこと。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、この組合の組合員に対する信頼を損ない、当該共済関係の存続を困難とする重大な事由

(解除の効力)

第105条 畑作物共済の共済関係の解除は、将来に向かってのみその効力を生ずる。

- ② この組合は、次の各号に掲げる規定により共済関係の解除をした場合には、当該各号に定める損害を填補する責任を負わない。
- (1) 第102条第2項 解除がされた時までに発生した共済事故による損害。ただし、同項の事実に基づかずに発生した共済事故による損害については、この限りでない。
 - (2) 第103条 解除がされた時までに発生した共済事故による損害
 - (3) 前条 同条各号に掲げる事由が生じたときから解除された時までに発生した共済事故による損害

(共済金支払額、減収量等の公告)

第106条 この組合は、共済金の支払額の決定後遅滞なく、組合員ごとに、共済金の支払額、減収量、共済金の支払期日及び支払方法を公告するものとする。

第5章 園芸施設共済

(共済関係の成立)

第107条 園芸施設共済の共済関係は、特定園芸施設ごとに、組合員が所有し又は管理する特定園芸施設を園芸施設共済に付することを申し込み、この組合がこれを承諾することによって、成立するものとする。

- ② 組合員が特定園芸施設の所有者であるときにおける前項の規定による申込みは、その者が所有する特定園芸施設（次に掲げる事由に該当する特定園芸施設及び園芸施設共済に付した特定園芸施設を除く。）の全てについてするものとする。

- (1) 共済金額が、小損害不填補の基準金額（第 116 条の規定により申し出た金額をいう。以下同じ。）以下であること。
- (2) 共済事故の発生が相当の確実さをもって見通されること。
- (3) 当該特定園芸施設に係る損害の額の適正かつ円滑な認定が困難であること。
- (4) 当該特定園芸施設につき通常の管理が行われず又は行われぬおそれがあること。
- (5) 当該特定園芸施設が他の損害保険等に付されており、かつ、組合員が当該特定園芸施設につき共済関係を成立させない旨の申出をしたこと。
- (6) 当該特定園芸施設の経過年数が農林水産大臣が定める年数を超過しており、かつ、組合員が当該特定園芸施設につき共済関係を成立させない旨の申出をしたこと。

（園芸施設共済の申込み）

第 108 条 組合員が園芸施設共済の申込み（前条第 1 項の規定による申込みをいう。以下同じ。）をしようとするときは、次の事項を記載した申込書をこの組合に提出しなければならない。この場合において、組合員は、附帯施設又は施設内農作物について共済目的とする旨の申出をすることができる。

- (1) 組合員の氏名及び住所（法人たる組合員にあっては、その名称、その代表者の氏名及びその事務所の所在地）
 - (2) 特定園芸施設の構造、材質、所在地、経過年数及び被覆期間
 - (3) 附帯施設の種類及び経過年数
 - (4) 施設内農作物の種類、栽培面積及び栽培期間
 - (5) 小損害不填補の基準金額
 - (6) 自動継続特約を付する場合はその旨
 - (7) その他共済目的を明らかにすべき事項
- ② 前項後段の規定による申出をする場合において、組合員は、当該申込みに係る共済関係のうち、附帯施設又は施設内農作物を共済目的とすることができるもの（その特定園芸施設に係る附帯施設又は施設内農作物が、共済事故の発生が相当の確実さをもって見通されるもの又は通常の管理が行われず若しくは行われぬおそれがあるものである共済関係を除く。）の全てについて、当該申出をしなければならない。
- ③ 組合員は、園芸施設共済の申込みと同時に、この組合に対し、第 115 条第 3 項の撤去費用基準額を加えて得た金額により共済価額を設定する旨の申出をすることができる。
- ④ 組合員は、園芸施設共済の申込みと同時に、この組合に対し、第 115 条第 4 項の復旧費用基準額を加えて得た金額により共済価額を設定する旨の申出をすることができる。
- ⑤ この組合は、園芸施設共済の申込みを受けたときは、当該申込みを承諾するかどうかを決定して、これを組合員に通知するものとする。
- ⑥ 第 1 項の申込書に記載した事項に変更（第 16 条第 1 項第 6 号に規定する共済目的の異動を除く。）が生じたときは、組合員は、遅滞なく、その旨をこの組合に通知しなければならない。

（申込みの承諾を拒む場合）

第 109 条 この組合は、特定園芸施設を管理する組合員から園芸施設共済の申込みがあった場合において、その者が共済事故による損害について当該特定園芸施設の所有者に対して原状回復義務を負っていないとき、当該申込みに係る特定園芸施設が第 107 条第 2 項第 1 号から第 4 号までに掲げる事由に該当するとき又は当該申込みに係る特定園芸施設が園芸施設共済に付された特定園芸施設であるときは、当該申込みの

承諾を拒むことができるものとする。

(共済事故の一部除外)

第 110 条 組合員は、施設内農作物を共済目的とする園芸施設共済の全てについて園芸施設共済の申込みと同時に、この組合に対し、園芸施設共済の共済事故のうち病虫害を共済事故としない旨の申出をすることができる。

② 前項の申出は、その者に係る施設園芸の業務の規模その他施設園芸に関する条件が次の各号のいずれかに掲げる基準に適合するときに限り、することができる。

(1) 前項の申出をした者が所有し又は管理する特定園芸施設の設置面積の合計が5アール以上であり、かつ、当該申出に係る共済責任期間の開始前3年間にわたり引き続き特定園芸施設を用いて施設園芸の業務を営んだ経験を有すること。

(2) 前項の申出に係る共済事故による損害の防止を行うため必要な施設が整備され、かつ、その防止を適正に行う見込みがあること。

(共済関係成立時の書面交付)

第 111 条 この組合は、園芸施設共済の共済関係が成立したときは、遅滞なく、組合員に対し、次に掲げる事項を記載した書面を交付するものとする。

(1) 組合の名称

(2) 組合員の氏名又は名称

(3) 特定園芸施設、所在地及び設置面積

(4) 共済事故

(5) 共済責任期間の始期及び終期

(6) 被覆期間

(7) 小損害不填補の基準金額

(8) 共済金額

(9) 組合員の属する危険段階

(10) 付保割合、附帯施設の有無（附帯施設がある場合は、その種類）、特定園芸施設撤去費用の有無、園芸施設復旧費用の有無、施設内農作物の有無（施設内農作物がある場合はその種類）及び自動継続特約の有無

(11) 共済目的を特定するために必要な事項

(12) 組合員負担共済掛金及び賦課金並びにその支払の方法

(13) 第 16 条第 1 項第 6 号、第 3 項、第 4 項及び第 9 項並びに第 108 条第 6 項の通知をすべき事項

(14) 特定園芸施設撤去費用額又は園芸施設復旧費用額に係る復旧計画書、領収書又は請求書の提出期間及びその提出の方法

(15) 共済関係の成立年月日

(16) 書面を作成した年月日

② 前項の書面には、組合長が署名し、又は記名押印しなければならない。

(共済責任期間)

第 112 条 園芸施設共済の共済責任期間は、この組合が組合員から組合員負担共済掛金の払込みを受けた日

の翌日から1年間とする。

- ② 次の場合には、前項の規定にかかわらず、園芸施設共済の共済責任期間は、その開始している共済責任期間の終了する日（以下この項において「終了日」という。）の翌日から1年間とする。
- (1) この組合が、その共済責任期間が現に開始し、かつ、終了していない園芸施設共済に係る組合員から、終了日の1か月前から終了日の前日までの間に当該園芸施設共済に係る特定園芸施設を共済目的とする共済関係に係る組合員負担共済掛金の払込みを受けた場合
 - (2) 気象上の原因により農作物の生育が阻害されることを防止するための施設としての共済責任期間と、気象上の原因により農作物の生育が阻害されることを防止するための施設以外の特定園芸施設としての共済責任期間が連続する特定園芸施設に係る園芸施設共済において、その先に開始するいずれかの特定園芸施設に係る共済責任期間の終了日の10日前から終了日の前日までの間に当該園芸施設共済に係る特定園芸施設を共済目的とする園芸施設共済に係る組合員負担共済掛金の払込みを受けた場合
- ③ この組合は、次に掲げる事由に該当する園芸施設共済の共済関係については、前2項の規定にかかわらず、当該共済関係に係る組合員との協議により、当該共済関係に係る共済責任期間を1か月以上1年未満（第1号に掲げる事由に該当する園芸施設共済の共済関係に係る共済責任期間にあつては、1年未満）とすることができる。
- (1) 共済責任期間の始期又は終期を統一する必要があること。
 - (2) 当該特定園芸施設の設置期間が周年でないこと。

（組合員負担共済掛金の金額及びその徴収方法）

- 第113条 園芸施設共済に係る組合員負担共済掛金の金額は、第117条の規定により算定した組合員が支払うべき共済掛金から、その2分の1に相当する金額（その金額が法第15条の農林水産大臣の定める金額を超える場合にあつては、その農林水産大臣の定める金額）（組合員負担共済掛金の一部に充てるための補助金がある場合にあつては、当該金額及び当該補助金の金額）を差し引いて得た金額とする。
- ② 組合員負担共済掛金の払込みの告知は、払い込むべき金額、払込期日及び払込場所を記載した書面をもってするものとする。

（組合員負担共済掛金の払込期限）

- 第114条 園芸施設共済の申込みをした者は、第108条第5項の承諾の通知が到達した日の翌日から起算して1週間以内に、園芸施設共済に係る組合員負担共済掛金をこの組合に払い込まなければならない。
- ② 組合員は、特定園芸施設の被覆期間の変更に伴い共済掛金が増額された場合は、第16条第1項第6号の通知の日から起算して2週間以内に、当該被覆期間の変更に伴い増額された組合員負担共済掛金をこの組合に払い込まなければならない。
- ③ この組合は、特定園芸施設の被覆期間の変更に伴い共済掛金が減額された場合は、当該被覆期間の変更に伴い減額された組合員負担共済掛金を、遅滞なく、組合員に返還するものとする。
- ④ 第1項に規定する払込期限を過ぎて組合員負担共済掛金の払込みを受けたときは、この組合は、改めて園芸施設共済の申込みがあったものとみなして取り扱うものとする。

（共済金額）

- 第115条 園芸施設共済の共済金額は、特定園芸施設（第2条第5項の規定により共済目的とした附帯施設又は施設内農作物を含む。以下「特定園芸施設等」という。）ごとに、共済価額の100分の40を下回らず、

共済価額の100分の80を超えない範囲内において、第119条第1項の園芸施設共済掛金率等一覧表に掲げる金額のうちから組合員が選択した金額とする。

- ② 前項の共済価額は、規則第156条第1項の農林水産大臣が定める準則に従い、当該園芸施設共済の共済関係に係る特定園芸施設及び附帯施設の共済責任期間開始の時ににおける価額を基礎とし、当該園芸施設共済の共済関係に係る施設内農作物の生産費を勘案して、この組合が定める金額とする。
- ③ 第108条第3項の申出に係る園芸施設共済の共済関係の共済価額は、前項の規定にかかわらず、同項の規定により算定された金額に、規則第156条第2項第1号の農林水産大臣が定める金額（以下「撤去費用基準額」という。）を加えた金額とする。
- ④ 第108条第4項の申出に係る園芸施設共済の共済関係の共済価額は、前2項の規定にかかわらず、前2項の規定により算定された金額に、規則第156条第2項第2号に掲げる金額（以下「復旧費用基準額」という。）を加えた金額とする。

（小損害不填補の基準金額）

第116条 組合員は、特定園芸施設等ごとに、共済金の支払条件に係る損害の額を、次に掲げる金額から申し出るものとする。なお、第4号又は第5号の金額を選択する場合にあっては、当該特定園芸施設等の共済価額が第4号又は第5号の金額を超えている場合に限る。

- (1) 3万円（共済価額の20分の1に相当する金額が3万円に満たないときは、当該相当する金額）
- (2) 10万円
- (3) 20万円
- (4) 50万円
- (5) 100万円

（共済掛金）

第117条 園芸施設共済の共済掛金は、共済関係ごとに、次の式によって算定される金額とする。

| |
|---|
| $\text{共済掛金} = \text{共済金額} \times \text{共済掛金率} \times \text{短期係数} (\text{共済責任期間 (月数)} / 12)$ <p style="text-align: center;">（注）共済責任期間（月数）の1月未満の端数があるときは、これを1月とする。</p> |
|---|

- ② 共済掛金率は、この組合が総会又は総代会の議決を経て定めた共済掛金率のうち、当該組合員の危険段階区分に係るものを適用する。

（自動継続特約の締結）

第118条 この組合は、園芸施設共済の申込みの承諾の際、組合員からの申出により、翌年以降において共済責任期間が終了するまでに当該組合員から園芸施設共済の申込みをしない旨の意思表示がないときにおいて当該園芸施設共済の申込みがあったとする旨の特約（以下「園芸施設共済自動継続特約」という。）をすることができる。

- ② この組合は、園芸施設共済自動継続特約を付した園芸施設共済について、共済責任期間が終了するまでに、前年の共済関係の内容を示すとともに、当該組合員からその内容の変更の申出がある場合は、これを変更するものとする。

（園芸施設共済掛金率等一覧表の備置き及び閲覧）

第119条 理事は、園芸施設共済の共済掛金率、共済金額、組合員負担共済掛金率等を記載した園芸施設共済掛金率等一覧表を作成し、これを事務所に備えて置かなければならない。ただし、当該一覧表の内容を、

電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録及び保存をすれば、その作成と備置きを行わないものとするができる。

- ② 理事は、前項に掲げる事項が改定されたときは、当該事項を公告しなければならない。
- ③ 組合員は、いつでも、第1項の園芸施設共済掛金率等一覧表の閲覧を求めることができる。

(共済金の支払額)

第120条 園芸施設共済に係る共済金は、特定園芸施設等ごとに、共済事故によって組合員が被る損害の額が小損害不填補の基準金額を超えた場合に支払うものとし、その金額は、当該損害の額に、共済金額の共済価額に対する割合を乗じて得た金額に相当する金額とする。

- ② 前項の損害の額は、次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定める金額にそれぞれ共済事故による損害の割合を乗じて得た金額を合計して得た金額から、共済事故が発生したときに現に当該特定園芸施設等のうち損害を生じた部分につき存する利益及び共済事故の発生によって生じた利益の全部又は一部を差し引いて得た金額により、算定するものとする。
 - (1) 特定園芸施設 当該特定園芸施設の価額で当該園芸施設共済の共済価額の算定の基礎となったもの
 - (2) 附 帯 施 設 当該附帯施設の価額で当該園芸施設共済の共済価額の算定の基礎となったもの
 - (3) 施設内農作物 当該施設内農作物の生産費に相当する金額で当該園芸施設共済の共済価額の算定の基礎となったもの
- ③ 前項の規定にかかわらず、次のいずれかの場合であつて、第16条第9項の規定による通知に際して、同条第10項の規定による特定園芸施設撤去費用額に係る領収書又は請求書の提出があつたときは、前項の規定により算定される金額に特定園芸施設撤去費用額を加えて得た金額により、第1項の損害の額を算定するものとする。
 - (1) 特定園芸施設撤去費用額が100万円を超える場合
 - (2) 特定園芸施設（被覆物を除く。）の損害の割合が50%（規則第157条第5号の表のガラス室Ⅰ類又はガラス室Ⅱ類の区分に属する特定園芸施設にあつては、35%）を超える場合
- ④ 前項の特定園芸施設撤去費用額は、規則第160条第2項の農林水産大臣が定める費用の額（その額が撤去費用基準額に当該特定園芸施設の共済事故による損害の割合を乗じて得た金額を超えるときは、その乗じて得た金額）とする。
- ⑤ 第2項又は第3項の規定にかかわらず、第16条第9項の規定による通知に際して、同条第10項の規定による園芸施設復旧費用額に係る領収書又は請求書の提出があつたときは、第2項又は第3項の規定により算定される金額に園芸施設復旧費用額を加えて得た金額により、第1項の損害の額を算定するものとする。
- ⑥ 前項の園芸施設復旧費用額は、共済事故の発生に伴い特定園芸施設（被覆材を除く。）又は附帯施設（以下「復旧対象施設」という。）を復旧するのに要する費用の額から当該復旧対象施設の共済責任期間開始の時点における価額に共済事故による損害の割合を乗じて得た金額を差し引いて得た金額（その差し引いて得た金額が復旧費用基準額に当該復旧対象施設の共済事故による損害の割合を乗じて得た金額を超えるときは、その乗じて得た金額）とする。
- ⑦ 第2項各号に掲げる金額を合計して得た金額がその損害が生じた地及び時における共済目的の価額を著しく超えていることを組合が証明した場合は、同項の規定にかかわらず、第1項の損害の額は、当該共済目的の価額によって算定する。この場合における第3項及び第5項の規定の適用については、第3項中「前項」とあるのは「第7項」と、第5項中「第2項又は第3項」とあるのは「第3項又は第7項」とする。

- ⑧ 同一の共済目的について保険金又は共済金を支払うべき他の保険契約又は共済関係（以下「保険契約等」という。）が存する場合であっても、園芸施設共済に係る共済金は、前7項の規定により算出した金額とする。
- ⑨ 前項の規定により支払うこととなる園芸施設共済に係る共済金と他の保険契約等により既に支払われた保険金又は共済金の額との合計額が、損害の額（他の保険契約等において算出された損害の額が園芸施設共済において算出された損害の額と異なるときは、それぞれの基準により算出した損害の額のうち最も高い損害の額。以下この項において同じ。）を超える場合は、園芸施設共済に係る共済金は、前項の規定にかかわらず、損害の額から他の保険契約等により既に支払われた保険金又は共済金の額の合計額を差し引いた金額とする。ただし、他の保険契約等がないものとして算出した共済金に相当する金額を限度とする。

（共済金額の削減）

第 121 条 この組合は、園芸施設共済の共済金の支払に不足を生ずる場合には、次に掲げる金額の合計金額をその支払に充ててもなお不足を生ずる場合に限り、共済金額を削減することができる。

- (1) 園芸施設共済に係る定款第 54 条の不足金填補準備金の金額
 - (2) 園芸施設共済に係る定款第 56 条の特別積立金の金額
- ② 前項の規定による共済金額の削減は、当該事業年度中に支払の事由が生じた共済金額の全てについて、行うものとする。

第 122 条 この組合は、決算において共済金額の削減を生ずるおそれがある場合には、仮に共済金額を削減して支払うことができる。

（共済金の支払の免責等）

第 123 条 次の場合には、この組合は、共済金の全部又は一部につき、支払の責任を免れるものとする。

- (1) 組合員が第 12 条第 1 項の規定による義務を怠ったとき。
 - (2) 組合員が第 13 条の規定による指示に従わなかったとき。
 - (3) 組合員が第 16 条第 1 項第 6 号、第 3 項、第 4 項又は第 9 項の規定による通知を怠り又は悪意若しくは重大な過失によって不実の通知をしたとき。
 - (4) 園芸施設共済の申込みをした組合員が、当該申込みの際、当該申込みに係る特定園芸施設等に関する第 108 条第 1 項第 2 号から第 4 号までに掲げる事実又は事項につき、悪意又は重大な過失によってこれを通知せず又は不実の通知をしたとき（この組合がこれを知っていたとき及び過失によってこれを知らなかったときを除く。）。
 - (5) 組合員が正当な理由がないのに第 114 条第 2 項の規定に違反して、被覆期間の変更に伴い増額された組合員負担共済掛金の払込みを遅延したとき。
- ② この組合は、組合員が植物防疫法の規定に違反した場合には、当該違反行為の結果通常生ずべき損失の額については、当該組合員に対して共済金の支払の義務を有しない。

（支払責任のない損害）

第 124 条 この組合は、自然の消耗によって生じた被覆物の損害について、園芸施設共済に係る共済金を支払う責めに任じないものとする。

(告知義務違反による解除)

第 125 条 組合員は、園芸施設共済の申込みの当時、園芸施設共済に係る共済関係が成立することにより填補することとされる損害の発生の可能性に関する重要な事項のうちこの組合が告知を求めたものについて、事実の告知をしなければならない。

- ② この組合は、組合員が、前項に基づきこの組合が告知を求めたものについて、故意若しくは重大な過失により事実の告知をせず、又は不実の告知をしたときは、当該園芸施設共済の共済関係を解除することができる。
- ③ この組合は、前項の規定にかかわらず、次に掲げる場合には、共済関係を解除することができない。
 - (1) 園芸施設共済の申込みの承諾の当時において、この組合が前項の事実を知り、又は過失によって知らなかったとき。
 - (2) 共済媒介者が、組合員が第 1 項の事実の告知をすることを妨げたとき。
 - (3) 共済媒介者が、組合員に対し、第 1 項の事実の告知をせず、又は不実の告知をすることを勧めたとき。
- ④ 前項第 2 号及び第 3 号の規定は、当該各号に規定する共済媒介者の行為がなかったとしても組合員が第 1 項の事実の告知をせず、又は不実の告知をしたと認められる場合には、適用しない。
- ⑤ 第 2 項の規定による解除権は、この組合が同項の規定による解除の原因があることを知った時から 1 か月間行使しないときは、消滅する。園芸施設共済の申込みの承諾の時から 6 か月を経過したときも、同様とする。

(重大事由による解除)

第 126 条 この組合は、次に掲げる事由がある場合には、園芸施設共済の共済関係を解除するものとする。

- (1) 組合員が、この組合に当該共済関係に基づく共済金の給付を行わせることを目的として損害を生じさせ、又は生じさせようとしたこと。
- (2) 組合員が、当該共済関係に基づく共済金の給付の請求について詐欺を行い、又は行おうとしたこと。
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、この組合の組合員に対する信頼を損ない、当該共済関係の存続を困難とする重大な事由

(解除の効力)

第 127 条 園芸施設共済の共済関係の解除は、将来に向かってのみその効力を生ずる。

- ② この組合は、次の各号に掲げる規定により共済関係の解除をした場合には、当該各号に定める損害を填補する責任を負わない。
 - (1) 第 125 条第 2 項 解除がされた時まで発生した共済事故による損害。ただし、同項の事実に基づかずに発生した共済事故による損害については、この限りでない。
 - (2) 前条 同条各号に掲げる事由が生じたときから解除された時まで発生した共済事故による損害

(共済関係の失効)

第 128 条 園芸施設共済の共済目的について譲渡又は相続その他の包括承継があったときは、第 11 条第 1 項(同条第 6 項において準用する場合を含む。)の規定により譲受人又は相続人その他の承継人が当該園芸施設共済の共済関係に関し譲渡人又は被相続人その他の被承継人の有する権利義務を承継した場合を除き、当該園芸施設共済の共済関係は、その譲渡又は相続その他の包括承継があった時からその効力を失う。

(他人の所有する特定園芸施設又は附帯施設を園芸施設共済に付した場合)

第 129 条 他人の所有する特定園芸施設又は附帯施設を管理する者が、損害賠償の責任を負うことによって生ずることのある損害を填補するため当該特定園芸施設又は附帯施設を園芸施設共済に付したときは、共済事故に係る損害賠償請求権を有する当該特定園芸施設又は附帯施設の所有者は、共済金を請求する権利について先取特権を有する。

② 組合員は、前項の損害賠償請求権に係る債務について弁済をした金額又は当該特定園芸施設若しくは附帯施設の所有者の承諾があった金額の限度においてのみ、この組合に対して共済金を請求する権利を行使することができる。

(共済金支払額等の通知)

第 130 条 この組合は、共済金の支払額の決定後遅滞なく、当該組合員に共済金の支払額、第 120 条第 1 項の損害の額、共済金の支払期日及び支払方法を通知するものとする。

第 6 章 損害評価会等

(損害評価会の設置)

第 131 条 この組合に、損害評価会を置く。

- ② 損害評価会は、共済事故に係る損害の防止及び認定に関する重要事項について調査審議する。
- ③ 損害評価会は、前項に規定する事項に関し学識経験を有する者のうちから、組合長が総代会の承認を得て選任した委員 18 人以内をもって組織する。

(損害評価会の委員の任期)

第 132 条 損害評価会の委員の任期は、3 年とし、前任者の任期満了の日の翌日から起算する。ただし、定数の補充によって選任された委員の任期は、退任した委員の残任期間とする。

② 任期満了によって退任した委員は、後任の委員が就任するまでは、なおその職務を行う。

(損害評価会の会長)

第 133 条 損害評価会に会長を置く。

- ② 会長は、委員のうちから互選する。
- ③ 会長は、会務を総理する。
- ④ 会長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員がその職務を代行する。

(損害評価会の部会)

第 134 条 損害評価会に農・畑作物共済部会及び家畜共済部会を置く。

- ② 部会に属すべき委員は、損害評価会の委員のうちから会長が指名する。
- ③ 部会に部会長を置く。部会長は、部会に属する委員のうちから会長が指名する。
- ④ 部会長は、部会の事務を掌理する。
- ⑤ 損害評価会においてその旨を議決したときは、部会の決議をもって損害評価会の決議とすることができる。
- ⑥ 前条第 4 項の規定は、部会長について準用する。

(損害評価会の会議)

第 135 条 損害評価会の会議は、会長が招集する。

- ② 部会の会議は、部会長が招集する。
- ③ 損害評価会の会議及び部会の会議の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

(地区評価員)

第 136 条 この組合に、地区評価員 243 人以内を置く。

- ② 地区評価員は、組合長の命を受けて、共済目的の評価、損害の認定、損害の防止等に従事する。
- ③ 地区評価員は、組合長が理事会の承認を得て任免する。
- ④ 地区評価員は、第 132 条の規定を準用する。

第 137 条 削 除

(NOSA I 部長)

第 138 条 この組合に、集落その他これに準ずる地区ごとにNOSA I 部長 670 人以内を置く。

- ② NOSA I 部長は、共済掛金の徴収、損害の通知の受理その他日常の組合の業務に関する事項について組合と担当地区内の組合員との連絡の任に当る。
- ③ NOSA I 部長は、組合長が理事会の承認を得て委嘱する。

(報 酬)

第 139 条 損害評価会の委員、地区評価員及びNOSA I 部長には、総代会の議決により、報酬その他の給与を支給する。

第 7 章 家 畜 診 療 所

(設 置)

第 140 条 この組合に、家畜診療所を置く。

- ② 家畜診療所は、家畜共済に付した家畜の診療及び損害防止を行う。
- ③ 家畜診療所は、前項の事業に支障がない場合に限り、家畜共済に付していない牛、馬又は豚の診療を行うことができる。
- ④ 診療料金は、農林水産大臣が定める点数及び家畜診療所の運営の状況を勘案して総代会において定める。ただし、共済事故以外の診療料金は、別に理事会で定めるところによる。
- ⑤ この事業規程に規定するもののほか、家畜診療所の運営に関し必要な事項は、家畜診療所運営規則で定める。
- ⑥ 前項の家畜診療所運営規則は、理事会において定める。

第 8 章 補 則

(農業経営収入保険に移行する者の共済掛金及び賦課金の返還)

第 141 条 組合員は、農業経営収入保険に加入しようとするときは、共済関係を解除することができる。こ

の場合において、当該解除の日（個人にあつては12月31日、法人にあつては事業年度開始日の前日）の翌日以後に共済責任期間（家畜共済にあつては共済掛金期間）が終了するものの共済掛金については、この組合は、農作物共済及び畑作物共済にあつてはその全額、家畜共済及び園芸施設共済にあつては共済責任期間の未経過部分に相当する金額を日割で計算した金額を組合員に返還するものとする。

- ② 前項の場合は、この組合は、組合員が支払った賦課金を、農作物共済及び畑作物共済にあつては全額、家畜共済及び園芸施設共済（施設内農作物に係る金額割賦課金に限る。）にあつては共済責任期間の未経過部分に相当する金額を日割で計算した金額を組合員に返還するものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 農作物共済に係る規定は、施行日以後に共済責任期間の開始する農作物共済の共済関係から適用するものとする。
- 3 家畜共済に係る規定は、施行日以後に共済掛金期間の開始する家畜共済の共済関係から適用するものとする。
- 4 畑作物共済に係る規定は、平成16年産（ばれいしょにあつては平成17年産）の農作物に係る共済関係から適用するものとする。
- 5 園芸施設共済に係る規定は、施行日以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係から適用するものとする。
- 6 任意共済に係る規定は、施行日以後に共済責任期間の開始する任意共済の共済関係から適用するものとする。
- 7 第148条第3項の規定は、平成17年3月14日の任期満了に伴う選任時から適用する。
- 8 平成17年3月15日に就任する損害評価会委員の任期は第149条の規定にかかわらず、平成19年5月31日までとする。
- 9 平成17年2月1日に就任する地区評価員の任期は第153条第4項の規定にかかわらず、平成19年3月31日までとする。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝支庁長の認可のあった日から施行する。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝支庁長の認可のあった日から施行する。
- 2 変更後の第32条第1項第1号から第4号、第34条第1号及び第3号から第4号の規定は、平成19年産

水稻（麦にあつては平成 20 年産）の農作物に係る共済関係から適用するものとする。

- 3 変更後の第 81 条第 2 号の規定は、平成 18 年産の畑作物共済に係る共済関係から適用する。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝支庁長の認可のあつた日から施行する。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝支庁長の認可のあつた日から施行する。
- 2 第 154 条第 1 項の変更は、平成 20 年 1 月 31 日の任期満了に伴う任免から適用し、当該任免前については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝支庁長の認可のあつた日から施行する。
- 2 変更後の第 5 条第 4 項及び第 27 条第 2 項の規定は、北海道総合振興局及び振興局の設置に関する条例の施行日から適用し、施行日前については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 施行日前に共済責任期間（家畜共済にあつては、共済掛金期間。以下同じ。）の開始する共済関係については、なお従前の例による。ただし、次項から第 5 項までに規定する規定の適用については、次項から第 5 項までに定めるところによる。
- 3 変更後の第 21 条、第 60 条第 6 項から第 8 項まで、第 71 条の 2、第 71 条の 3 第 1 項（第 71 条の 2 の規定による解除に係る部分に限る。）及び第 2 項第 2 号、第 93 条の 3、第 93 条の 4 第 1 項（第 93 条の 3 の規定による解除に係る部分に限る。）及び第 2 項第 3 号、第 113 条の 2、第 113 条の 3 第 1 項（第 113 条の 2 の規定による解除に係る部分に限る。）及び第 2 項第 2 号、第 125 条、第 126 条第 1 項（第 125 条の規定による解除に係る部分に限る。）及び第 2 項第 2 号並びに第 138 条第 2 項の規定は、施行日前に共済責任期間の開始する共済関係についても、適用する。
- 4 施行日前に共済責任期間の開始する共済関係に係る共済事故が施行日以後に発生した場合には、変更後の第 73 条第 1 項及び第 2 項、第 115 条第 1 項及び第 2 項の規定を適用する。
- 5 施行日前に共済責任期間の開始する共済関係に係る共済金の支払を請求する権利（施行日前に発生した共済事故に係るものを除く。）の譲渡又は差押えが施行日以後にされた場合には、変更後の第 73 条第 3 項及び第 115 条第 3 項の規定を適用する。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 施行日前に共済責任期間（家畜共済にあつては、共済掛金期間。以下同じ。）の開始する共済関係については、なお従前の例による。ただし、次項から第5項までに規定する規定の適用については、次項から第5項までに定めるところによる。
- 3 変更後の第2条第4項から第5項、第67条第1項第6号から第10号及び第106条第1項の規定は、平成22年4月1日から施行日前までに共済責任期間の開始する共済関係についても、適用する。
- 4 変更後の第35条の規定は、平成23年産の水稻及び麦から適用するものとし、平成22年以前の年産の水稻及び麦については、なお従前の例による。
- 5 変更後の第70条第3項の規定は、施行日前までに共済責任期間の開始する共済関係についても、適用する。
- 6 変更後の第2条第1項及び同項第5号、第2条第6項、第4条第3項、第10条第2項及び第5項、第11条第3項、第15条第5項、第18条、第20条第1項第2号、第118条から第147条、別表第1号（第2条関係）、別表第2号（第131条関係）、附属書共済金支払規程第1条及び第2条の規定は、平成23年4月1日から適用し、当該日前については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 変更後の第35条第1項及び第3項、同条別表1及び別表2、第38条第1項及び別表、同条別表1及び別表2、第41条の規定は、平成23年産水稻（麦にあつては平成24年産）の農作物共済に係る共済関係から適用する。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行し、家畜伝染病予防法の一部を改正する法律（平成23年法律第16号）の施行の日（平成23年7月1日。以下「適用日」という。）から適用する。
- 2 変更後の第2条第1項第2号及び同条第2項第2号の規定は、適用日以後に共済掛金期間の開始する家畜共済について適用し、適用日前に共済掛金期間の開始する家畜共済については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行し、家畜伝染病予防法の一部を改正する法律（平成23年法律第16号）附則第1条第2号に掲げる規定の施行の日（平成23年10月1日。以下「適用日」という。）から適用する。

- 2 変更後の第2条第2項第2号の規定は、適用日以後に共済掛金期間の開始する家畜共済について適用し、適用日前に共済掛金期間の開始する家畜共済については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 変更後の第62条第2項及び第3項の規定は、平成24年4月1日（以下「適用日」という。）以後に共済掛金期間の開始する家畜共済の共済関係から適用し、適用日前に共済掛金期間の開始する家畜共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 3 変更後の第87条第3項から第5項の規定は、平成24年産の畑作物共済に係る共済関係から適用し、平成23年以前の年産の農作物に係る畑作物共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 4 変更後の第107条第1項及び第2項、第108条第1項から第3項の規定は、平成24年4月1日（以下「適用日」という。）以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係から適用し、適用日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行し、同日又は平成27年2月1日のいずれか遅い日以後に共済責任期間の開始する共済関係について適用し、同日前に共済責任期間の開始する共済関係については、なお従前の例による。
- 2 次の各号に掲げる共済関係は、第102条第1項の規定にかかわらず、組合員との協議により、当該各号に定める日から共済責任期間を始めることができる。
 - (1)平成27年1月31日までに成立している園芸施設共済の共済関係
平成27年2月1日
 - (2)平成27年2月1日から同年2月28日までの間に成立している園芸施設共済の共済関係
当該共済関係が成立した日の翌日
- 3 前項各号に掲げる共済関係に係る組合員負担共済掛金の払込期限は、第105条第1項の規定にかかわらず、平成27年3月10日までの間で組合員との協議により定めた日までとする。
- 4 組合員が正当な理由がないのに前項の規定による払込みを遅滞したときは、この組合は、当該園芸施設共済の共済関係を解除するものとする。
- 5 組合は、前項の規定により共済関係を解除した場合には、解除がされた時まで発生した共済事故による損害を補填する責任を負わない。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。

附 則

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 変更後の第 85 条第 1 項及び第 2 項、第 87 条第 2 項第 1 号及び第 2 号、第 88 条第 1 項第 1 号及び第 2 号、第 89 条第 1 項及び第 2 項の規定は、平成 28 年産の畑作物共済に係る共済関係から適用し、平成 27 年以前の年産の農作物に係る畑作物共済の共済関係については、なお従前の例による。

附 則

【平成 29 年 3 月 14 日十農務第 4744 号指令認可】

- 1 この共済規程の変更は、平成 29 年 3 月 31 日から施行する。
- 2 第 148 条第 3 項の変更により補充された損害評価会委員の任期は、第 149 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 31 年 5 月 31 日までとする。
- 3 変更後の第 62 条第 2 項及び第 3 項の規定は、平成 29 年 4 月 1 日（以下「適用日」という。）以後に共済掛金期間の開始する家畜共済の共済関係から適用し、適用日前に共済掛金期間の開始する家畜共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 4 畑作物共済の共済掛金率は、第 88 条の規定にかかわらず、平成 29 年産及び平成 30 年産に係るものについては、この組合の再編前の十勝農業共済組合及び士幌町の区域ごとに、なお従前の例による。

附 則

【平成 30 年 3 月 27 日十農務第 4667 号指令認可】

- 1 この共済規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 変更後の第 85 条第 1 項及び第 2 項、第 87 条第 2 項第 1 号及び第 2 号、第 88 条、第 89 条第 1 項及び第 2 項の大豆の規定は、平成 29 年 3 月 14 日十農務第 4744 号北海道十勝総合振興局長通知のあった附則 4 にかかわらず、平成 30 年産から適用し、平成 30 年以前の年産の農作物に係る畑作物共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 3 変更後の第 107 条の規定は、平成 30 年 4 月 1 日（以下「適用日」という。）以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係から適用し、適用日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係については、なお従前の例による。

附 則

【平成 30 年 3 月 28 日十農務第 4700 号指令認可】

- 1 この規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日又は平成 30 年 4 月 1 日のいずれか遅い日から施行する。
- 2 変更後の規定は、平成 31 年産の農作物に係る農作物共済の共済関係、平成 31 年 1 月 1 日以後に共済責

任が始まる家畜共済の共済関係並びに同日以後に共済責任期間が開始する畑作物共済及び園芸施設共済の共済関係から適用するものとし、平成30年産の農作物に係る農作物共済の共済関係、同日前に共済責任が始まる家畜共済の共済関係並びに同日前に共済責任期間が開始する畑作物共済及び園芸施設共済の共済関係については、変更前の共済規程（以下「旧共済規程」という。）の規定は、なおその効力を有する。この場合において、旧共済規程第1条中「農業災害補償法」とあるのは「農業災害補償法の一部を改正する法律（平成29年法律第74号）による改正前の農業災害補償法」とする。

- 3 平成32年1月1日以前に開始する家畜共済の共済掛金期間に係る共済関係についての変更後の第84条の規定の適用については、同条中「費用」とあるのは「費用（初診料を除く。）」と、「90/100」とあるのは「100/100」と、「100分の90に相当する金額」とあるのは「金額」とする。
- 4 平成30年3月31日までに共済責任期間の満了する共済関係に係る共済掛金の無事戻しは、平成31年3月31日までの間に限り、旧共済規程の規定の例により行うことができる。
- 5 変更後の第41条、第100条及び第121条の規定は、平成34事業年度から適用するものとし、同事業年度前の事業年度における共済金額の削減については、なお従前の例による。

附 則

【平成30年6月27日十農務第1369号指令認可】

- 1 この事業規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。

附 則

【平成30年9月13日十農務第2311号指令認可】

- 1 この事業規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 変更後の第107条第2項第1号から第4号、第108条第1項第5号から第7号、第111条第1項第7号、第116条及び第120条第1項の規定は、平成31年1月1日（以下「適用日」という。）以後に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係から適用し、適用日前に共済責任期間の開始する園芸施設共済の共済関係については、なお従前の例による。

附 則

【平成30年12月25日十農務第3704号指令認可】

- 1 この事業規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 平成31年1月1日以後に共済責任が始まる家畜共済の共済関係について、この組合が組合員との協議により特定の家畜共済の共済関係について特定の日に共済責任が始まる旨を定めたときは、第55条の規定にかかわらず、当該共済関係に係る共済責任は、その特定の日から始まる。ただし、包括共済家畜区分に属する家畜（群単位肉豚を除く。）であって、その日以後飼養するに至ったものにあつては、その飼養するに至った時から始まる。

- 3 前項の共済関係に係る共済掛金の支払（分割支払をする場合にあつては、第1回目の支払）は、前項の特定の日から2週間以内に行ななければならない。この場合において、第65条第2項の規定を準用する。

附 則

【令和元年5月30日十農務第1035号指令認可】

- 1 この事業規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
 - (1) 第16条及び第53条の変更規定 北海道十勝総合振興局長の認可のあった日又は令和元年7月1日のいずれか遅い日
 - (2) 第107条の変更規定 北海道十勝総合振興局長の認可のあった日又は令和元年6月1日のいずれか遅い日
 - (3) 第116条の変更規定 北海道十勝総合振興局長の認可のあった日又は令和元年9月1日のいずれか遅い日
- 2 変更後の第16条及び第53条の規定は、附則第1項第1号に規定する施行日以後に共済掛金期間が始まる死亡廃用共済の共済関係から適用するものとし、同日前に共済掛金期間が始まる死亡廃用共済の共済関係については、なお従前の例による。
- 3 変更後の第107条及び第116条の規定は、附則第1項第2号及び第3号に規定する施行日以後に共済責任期間が開始する園芸施設共済の共済関係から適用するものとし、同日前に共済責任期間が開始する園芸施設共済の共済関係については、なお従前の例による。

附 則

【令和元年12月17日十農務第4669号指令認可】

- 1 この事業規程の変更は、北海道十勝総合振興局長の認可のあった日から施行する。
- 2 第137条第1項から第4項及び第139条の変更は、現任する損害調査員の令和2年1月31日の任期満了の日の翌日から適用し、適用日前については、なお従前の例による。

農作物共済、家畜共済、畑作物共済及び園芸施設共済共済金支払規程

第1条 この組合は、第19条の規定により、農業保険法に基づく農作物共済、家畜共済、畑作物共済及び園芸施設共済の共済金の適正なる支払の実施を図るため、この規程に定めるところにより共済金の支払を行う。

第2条 この組合の組合員は、農作物共済、家畜共済、畑作物共済及び園芸施設共済にかかる共済金の支払を受ける金融機関を組合に登録しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、組合員の登録した金融機関が経営不振のため預貯金の払戻しの制限又は停止をしている場合には、組合員は、いつでも登録変更の届出を行うことができるものとし、この場合、届出のあった日の翌日からこの組合は、当該組合員の登録を変更するものとする。

第3条 この組合の組合員が前条の規定により登録する金融機関は、この組合の事業区域内の農業協同組合法（昭和22年法律第132号）第10条第1項第2号及び第3号の事業を併せ行う農業協同組合及び銀行並びに信用金庫とする。

第4条 この組合は、第2条の規定により組合員より金融機関の登録又は登録変更の届出があったときは、遅滞なく当該金融機関に連絡しなければならない。

第5条 この組合は、農業共済組合連合会から保険金の支払を受けた日から5日以内に第2条の規定により組合員の登録した金融機関の個人別預貯金口座に当該組合員に係る共済金を振り込まなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合には、組合員に対し現金をもって共済金の支払を行うことができる。

(1) 第2条の規定により登録した金融機関が経営不振となり、共済金の支払時に預貯金の払戻しを停止し又は制限している場合

(2) 家畜共済に付されている家畜が死亡し若しくは廃用となった場合、又は疾病若しくは傷害に関し指定獣医師（家畜共済に付されている家畜について診療の円滑適正を図るためにこの組合と指定獣医師契約を締結している獣医師をいう。）の診療を受けた場合

② この組合は、前項の支払後遅滞なく、当該組合員に対して支払通知書を発行しなければならない。